物産雑説

蟲類

四

A 00
5764

蟲類

東京大学総合図書館

四
No.5

壁蝨 本草綱目 狗蝿附録

時珍曰 即臭蟲也、状如酸棗仁、咂人血食、與蚤皆為牀榻之害、古人多於席下置麝香雄黄或菖蒲末或薙草末或楝花末或蓼末、或燒木瓜烟黄蘗烟牛角烟馬蹄烟、以辟之也、

事物紺珠 壁蝨一名壁駝、扁小褐也、臭而噆人、

五雜組 壁蝨又謂木蝨、多生木中、入夜則緣床入橫嗜人遍體成瘡、燔殺之甚臭

山堂肆考 蚤條曰又一種、身扁而臭不能跳、善齧人名曰文蚤、又名扁蝨、京師呼為壁陀蟲、

田芳
A00
5764
東京帝國大學圖書
B 45224
男爵田中美津男氏寄贈
先代田中芳男旧蔵書
昭和七年
東京大学総合図書館

三才圖會曰又一種黒而圓者名曰臭虫惟酒肆歇
家之處極多
以上ノ數說ニ拠バ和蘭名ワンドロイス（wandluis）ト称スルハ一種ノ虫ニシテ蚤、蝨、牛蝨等ト其屬ヲ同フセズシテ半翅部ニ屬ス
英名 Bug, Bed-bug.
佛名 Punaise des lits,
羅甸 Cimex lectularius,　リンネー
同 Acanthia lectularius　ルイヒヤーハ氏
英華字典 Bug, Wood-bug. 木虱、臭虫、殞虫

マルヤ

同 Bed-bug. 木虱
右ニ挙ル如ク全ク一種ノ虫ナレド是マデ本邦ニ無ヲ以テ牛蝨ト混ジテ区別アルヿナシ本草啓蒙和漢三才圖會等既ニ然リ故ニ其他ハ因襲シテ区別アルヿナシ
此虫ノ形状ヲ目撃セシハ旧幕時代外国ヨリ古艦ヲ買入レシ又ハニ多ク居リテ乘組人ノ難ムヲ聞キ軍艦方伴鉄太郎氏ニ乞フテ数疋ヲ得テ実検セシヿアリ
慶應年間佛國博覧會ノ節佛國ニ在リテ同交

ノ屡螫サレ雖ムヲ是ヲ捉リ捕リ火酒浸シテ
携帰ヘリ今尚博物館ニアリ其後墺国博覧会
米国博覧会等ノ一行中下等ノ旅宿ニ在リシ
人ハ常ニ螫サレタルコトハ甚多シ
該虫ノ人ヲ螫スハ夜間人眠ルノ頃床下屋隙
板下等微小ノ罅隙ヨリ出テ人ノ寝処ヲ襲ヒ
来リ螫シ天明前已ニ去リテ床上ニ居ラズ故
ニ燈ヲ一タレバ直ニ床ヲ捜スレバ得ベシ然
ラザレバ罅隙ヘ入リテ尋ヌベカラズ其形大
小一様ナラザルモ動作ハ漢説ニ符合セリ

マルヤ

○康熙字典ノ仮字
蜰音ハイヨリ
又牛蝨、牛蜱ヨリ

鼈蝨 芨蝨
ハ前条ノ壁蝨
ナルベシト思フ

牛蝨

本草綱目ニ一名牛蜱（音卑）（時珍曰）蜱亦作螕蜱按呂忱字林曰蜱齧牛蝨也集解（時珍曰）牛蝨生牛身上状如蓖麻子有白黒二色齧血満腹時自墜落也入薬用白色者○

按本草啓蒙壁蝨ト混交シ皆ダニト称シ其説全ク合ス其引用スル所ノ漢名亦然リ然シ凡介一ト其書ニ之レアルハ鼈蝨類書纂要草蜱訓蒙字会蔦蜱正字通芨蝨同上ノ名或ハ何レナルヤヲ知ラズ牛革虫外台秘要牛翁物理小識ノ名モ如何ナルヤヲ

定メガヌニ

原来ダニハ脊上凹ムニ因リ谷ノ名アリトカヤ此虫ハ原野草間ニ棲ミ人ニモ犬ニモ牛ニモ馬ニモ羊ニモ豕ニモ過ル所ノ動物ニ着キ血ヲ吸ヒ草麻子（タウノゴマ）ノ如ク膨脹スルモノニシテ西洋ニテ Tick（英名）羅甸名 ixodes ricinus. トテフ其種甚多シ康熙字典ニ牛蝨、豕蝨、狗蝨等ノ名アレド此ハダニノ名ニ着タルヘヤ又蝨ナルヘヤ分ラズ本邦ニテノ各称ハ本草啓蒙ニ挙ル如ク多ノ称アレド皆蜱ナリ別ニ蝨属

ヤルヤ

ニ Hog tick 豕ノ蝨 Dog tick 犬ノ蝨アリ羅甸 Haematopinus 同シ又 Deer tick 鹿ノ蝨 Horse tick 馬ノ蝨アリ羅甸 Trichodectes ナドテフ皆蜱（ダニ）ト全ク別ニシテ人蝨ニ近シ

本ノ諸書アルヲ以テ名ヲ正シクセント欲スル中ハ牛蝨ノ名ト混スルノ畏アレバ蜱ヲ以テダニニ充ル方宜シカランダニトテモ一品ニ止マラザレド蝨類トハ自ラ異ル所アリ

壁蝨ト牛蝨ヲ共ニダニニ充テ其彼ノ混スルヿ
ハ曾テ知得タリト雖モ未タ其彼ヲ立テザリシ
然ルニ今回下総種畜場後藤達三君ヨリ蜱ヲ駆
除スル法ヲ示シ扁虫ノ名ヲ下ス因テ一閲質問
スルニ雑字類篇ニ挙クル所ニ因リ扁蝨ノ名ヲ之
ニ挙ラレタリト然レ氏所案ニ示ス如ク扁蝨ノ字ナ
他物ナレハ單ニ蜱ノ字ノミ用フル方寧ロ錯雑
ノ患ナカラン因テ専断シテ扁蝨ノ字ヲ删除ス
ルト云フ

明治十四年十月十七日　田中芳男記

高銑一纂考

牛蝨　前漢項籍傳、搏牛之蝱不可以破蟣蝨

豕蝨　荘子徐無鬼、濡需者豕蝨是也

狗蝨　（韓愈詩）靈麻撮狗蝨（註）靈麻今胡麻、狀如狗蝨、本草云、一名狗蝨、

沙蝨　（博雅）沙蝨蝭蟣也、（本草）所在皆有之、雨後人晨昏踐沙必著人如毛髪刺人便入皮裏、

花虱　あぶらこ　秘傳花鏡　芬蝨今鵓花娘子曰

蜱　説文、齧牛蟲也、本草、牛蜱、一名牛螕、

玉篇　牛蟲蜱　ウシビラミトアリ

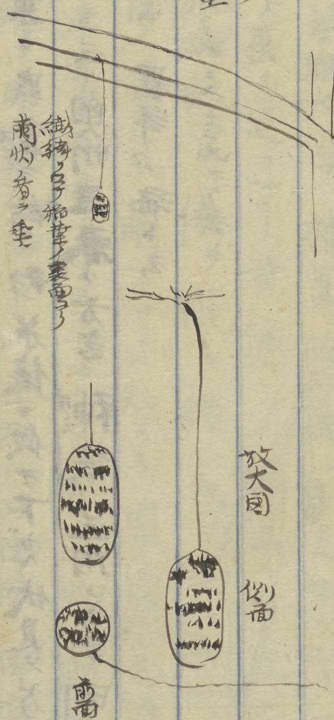
砂石集に、蟎をたふとぶを、背のくぼにて
谷に似たる故なりと見えたり、蟎は蛃の誤なる
べし、牛乗なり、和訓栞

蛃蜿 與蛃同、孟子、蠅蚋姑嘬之、玉篇
舊註同蚋、按、説文蚰部、蜿蟚牛蟲也、書故、
扁蟲著牛馬、食其血、産薦莩間者、若小嚙、
人膚、俗謂薦蜿、亦曰茭蟲蜿、麻子類蜿、故以名之

蠪蚉 陸稼書粤西偶記、粤子使者出巡諸郡、旅
店只茅亭一間、不蔽風雨、竹牀一張、毎輾
轉掛格作聲、蠪蚉攢嘬、達旦不寐

ロルヤ

豊年俵



三河國北設楽郡田口村邊ハ此物稲葉ニ生スル時ハ豊年俵ト称シテ瑞兆トスル由
蓋豊年ノ兆ニ非スシテ浮塵子等ノ生スル毎ニ之ヲナス此物ヲ見ル時ハ村中大凶年ナル
ノ目ノ如ク之ハ逆兆ノ意ナルヘシト云フ是浮塵子ノ蘭卵ナルカ未詳

明治十八年九月廿四日

織田完之誌

今天ニ梅龍園毛利之寿石瑛編著 皇代年鑑巻之十ヲ按スルニ

文政乙酉八年仲夏毛利治部村ノ伏見ノ尹タル時田中ノ

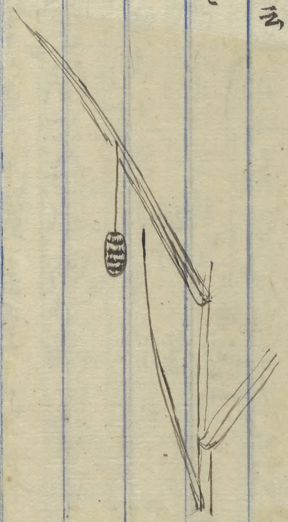
稲ノ葉ニ虫窠ヲ結フ形米俵ニ似テ下ガル伏見ノ方言

米俵ト云 奥州三春ノ方言神俵 三州ノ方言田ノ神

俵ト云 豊年ノ瑞ト云

米ニ付ク虫ニテ吉凶アリト云ヘ

下略ス



右豊年俵二個ハ織田氏ヨリ示サル即チ其図從フ

其器ハ米粒大ニシテ楕円形ヲ成シ蛹ノ小ナル如クニシテ一方

ノ繊維長ク延ヒテ寸餘ニシテ稲葉ニ附ク且両ハ

（淡褐色ニシテ暗褐色ノ）数條ノ横斑紋アリ俵ヲ縄ニテ縛ルガ如シ実ニ奇形ナリ

未タ何虫ノ巣ナルヤ繭ナルヤヲ知ラズ因テ農務局ニ掛ケ

孵ナ養ヒ末年ノ発生ヲ検セシトコロ且日ク其物ハ繭ニ非ス

恐クハ蜘蛛ノ卵嚢ナルベシト云ヘリ余按ニ其蜘蛛ノ卵嚢

ナラントノ説ハクハブサヲ以テ比シ考察セシモノカ右クハブサ

ナル者ハ去ル十四年十二月庭前ノ小樹枝ニ下垂スルヲ見タル

蜘蛛ノ如キモノ枝葉ヲ綴リテ之ニ所ヲ掛ケテアリシ一厚朱其卵嚢

葦ノ樹ニテ屢見人ニ見ス 信州路州等ヨリ出秋アリトノコトハ曾テ
田中芳男氏ノ説ヲ聞キタリ 而シテ東京ニテハ植樹ニモ林檎ニモ生ス
茶色ニシテ大サ形状殆ント百日紅ノ実ニ似タリ 此ノ如キ状
右ヲ蓄ヒ置ケハ多数ノ蜘蛛トナリタリ 始テ蜘蛛ノ卵嚢ナル
コトヲ知ル 故ニ此豊年俵ハ蜘蛛卵嚢ナルヘシトノ説ハ卵ナ
此ノ「ハブサ」ハ固ヨリ疑ヘキモノナルコトヲ知ル 尚明年ヲ待チ
テ実験ノ後ヲ聞セヨトス

明治十八年十月四日夜　田中芳男

此答前ノ文字 此ハ「ハブサ」ヲ切リ卵ヲ数ヘニ凡五百余粒アリ 而シテ卵ノ
形ハ尚長ク上ニ至リ 十月五日ヲ記

豊年俵

是ハ膜翅類ニ属ス 別図ノ如キ小蜂ノ繭ニテ俗ニ豊年俵
ト称スルモノナリ 此モ多クハ豊作ノ稲ニ生ズルヲ以テ此名アリ 其大
サ赤粒大ニシテ稍円形ヲナシ 一寸餘ノ細絲ニヨリテ稲葉
ニ懸垂スル事別図ノ如シ 其色淡褐ニシテ上下ニ暗黒色
ノ輪斑アリ 此ノ又五月中旬ニ至リ俵ノ上端ニ一小孔ヲ
穿チ蜂トナリ出テ飛揚ス
愚考スルニ 恐ラクハ稲ノ害虫ヲ刺シテ其卵ヲ産ミ付ケ
一種ノ益虫ナリ 此ヲ以テ此虫ヲ称シテ豊年ノ兆ト
ナス 世里ナラズ 田ヲ愛護スヘシ

右ハ小野孫三郎子ヨリ一種ヲ示サレテ猶ホ図アラン余
図中ノ蜂自ラ之ヲ畧写シテ置ノミ
十九年十二月十九日　田中芳男記

豊年俵ヨリ出シ蜂
長二分許ノモノヲ二倍大ノモノ拡大形
脚赤ク翅至テ薄シ
身黒色ナリ

畧写

○蜻蛉(トンボ)ノ世ニ効アル説　　田中芳男

蜻蛉ハ蛱蝶ト相共ニ美麗ノ羽蟲トシ雅客ハ之ヲ詩文ニ詠ジ画家ハ之ヲ描(ヱガキ)シテ花木ノ壮観ヲ助クルコ古來和漢共ニ同シ然ルニ今両蟲ノ世ニ効害アルコヲ論ゼハ蛱蝶ニハ家蠶(コカヒ)野繭(ヤマヽユ)ノ如キ鴻益ナル者アリト雖氏其他ハ皆草木ノ枝葉上ニ卵ヲ遺シテ蛅蟖(イラムシ)毛蠋(ケムシ)等ヲ生ゼシメ穀禾蔬菜菓樹ノ大害ヲナスコ最多

ク農耕種藝花園山林ヲ荒蕪スルニヨリ農家
園主等ヲシテ防禦駆除ノ方法ニ困苦セシム
又夜間ノ小蛾ニ至リテハ植物ニ卵ヲ遺スノ
外貯蓄ノ穀菜及ヒ羽毛等ニ小蛆ヲ生ゼシメ
非常ノ損害ヲ醸ス等衆人ノ知ル所ナリ然ル
ニ蜻蜓類ハ夫ニ反シテ蠶類ノ如キ有用物ア
ルニ非ズト雖𪜈穀菜菓樹ニ害ヲナスヿナク
却テ有害蟲ヲ駆除スルノ効アリ原來蜻蜓類
ハ食肉ナルヲ以テ常ニ他ノ小虫類ヲ捕食セ
リ今其一二ヲ挙レバ谿間ヨリ生ジテ山路ノ

行人ヲ艱マス所ノ小キ蝱虫ノ如キモ「シヤウ
ヂヤウトンボ」出レバ忽チ之ヲ食尽シ又ウシア
ブノ如キ大ナル蝱虫モ「シホカラトンボ」能ク
之ヲ食ヒ「ヤンマ」ハ黄昏ニ當リ頻ニ蚊ヲ捕食
シ又他ノ羽虫ヲ食スル等皆小虫ヲ食セザル
ナク蛺蝶ニ比スレバ人生ニ冥々ノ効アルヿ
雲泥ノ違ナリ又世ニ烏鳶ト稱シテ同様ニ看
過スレ𪜈烏ハ草木及園地ニ生ズル虫類又腐
肉ヲ食ヒテ少ク効アレ𪜈東京ノ如ク非常ニ
多キ地ニ於テハ常ニ菓樹蔬菜等ヲ害シ園圃ヲ

毀傷スル等其害頗ル多シ鳶ハ之ニ反シテ菓菜ヲ損害セズ園圃ヲ毀傷セズ唯廢棄セル腐肉及ヒ魚鳥ノ腸肚等ヲ食ヒテ汚穢物ヲ除去シ頗ル市街ヲ清掃スルハ大ニ世ニ効アル所ニシテ他ノ害アルヲ見ズ故ニ烏鳶ト同様ニ看過セラルヽハ鳶ノ為ニ冤ヲ訴ヘザルヲ得ズ猶蜻蜓蛺蝶ノ効害同ジカラザルガ如シ凡ソ兩間ニ生殖スル動物一トシテ人世ニ益アラザルナキガ故ニ縦令無用ノ長物トスルモ未タ其所用ヲ悉サヾルモノ多キヲ以テ一槩ニ論定スルヿ難シ然レ圧今茲ニ鸕鷀ヲ挙テ云ハヾ此鳥ハ鵜飼ニ用ヒテ香魚ヲ捕リ其羽毛ヲ用ヒテ鵜縄ヲ作ルガ如キ僅々タル使用アリト雖圧從来鸕鷀ノ性タル烏鳶ノ如ク腐肉ヲ食ハズ常ニ河海ニ産スル鮮魚ヲ食餌トシ又樹林ニ棲宿スルヤ枝葉ニ其糞ヲ附着セシメ遂ニ枯槁セシムルニ至ル其害ノ寡カラザルヿ知ルベシ故ニ鸕鷀ノ如キ其効害ヲ論ゼハ蜻蜓ニモ若カズト稱シテ可ナラン

此蜻蜓ハ旧六月ノ候凡一ヶ月許リ間アリト云フ

ハッテウトンボ

尾張春日井郡矢田村字八丁堀ノ特産ナルニヨリ水谷助六氏該地ヨリ取寄セタルニヨリ博物館ヘ献セニトテ持参ニヨリテ数個ヲ乞得タリ　同所ニ特産タル事ハ先年名古屋ニ在ル中聞キ又之ヲ得タル事アリシ　同所ハ旧藩時代砲術試験場大ニヨリ其的迠ノ間ハ八丁アリテ川而直ク砲手ノ大ヲ学ブ　遂ニ八丁堀ノ名アリ　此蜻蜓ハ其地ノミニ生スルニヨリテ此名アリ　他ニナシ　又他国ニ見タル事ヲ聞カズ

今其就品ヲ見ルニ身長サ五分　両翅ヲ張ハ幅四分アリ　胴ノ色ハ深紅色ナルハ雄也　アカトンボノ小ナルカ如シ　雌ハ黒キナリ

雌　牟カラトンボ

田中先生

田中先生 [illegible]

[illegible]

秋紅色ニシテ 塔板ナル 黒キ者ハ 明太ニシテ 此ノ如シ 又越後ニ於テハ

ノ如シ ● 黄色ナルアリトノ語ヲ聞ク 蓋シ上ハ アカトンボノ 殻ハ紅ニ

雌ハ黄ナルカ如キカ 今動ク 疑ヲ存ス

原来蜻蛉ハ 各地ニ 普通アルノモノニシテ 其種類ニ 各区アリテ 甚多シ

アルノ 無シ 其八丁蜻蛉ト称スルハ 種アルニテ 長洲 華厳ノ小ナ

ハ如キハ 本邦地図ヲ 見タル所ナリ 然ルハ 猫ノ所モ 無シト 知レテ

又 此原種ノ件ハ 如何ノ形ナルヤ 又 成虫ノ体 等尾ノ羽根ノ

收集未タ 周知ノ所モナシ 之ヲ得テ 此ノ流ルル 田ナルハ 其

流ニ沿フハ ノ理アルヤモ 知ラズ 又 アカトンボノ 土地ニヨリテ 氏

ニ如ク 小ク 或者ハ 大キナモノカ

明治十八年九月十四日

田中芳男 記

十月三日 小野 稿本ヘ 複写 二ツ 書入

明治十八年十月十二日下婢水ヲ汲マント欲シ井ニ至ル時ニ側ノ下水ノ中ニ奇ナル虫アリト余ニ告グ余アヤシミ至ル果シテ之アリ其ノ形ヲ観ルニ恰蜻蛉ノ如クニシテ頭ニ微毛ヲ生ジ体細長羽翼綱線ノ如ク鮮明ナリ此レ余等ノ未ダ嘗テ見ザル所ニシテ甚ダ奇ナル者也是ニ於イテ之ヲ捕ヘテ以テ籠中ニ置ケバ籠中ニテ羽翼ヲ擴張シ或ハ細縮ス後遂ニ数日ヲ經テ籠中ニ於テ死セリ然リト雖モ其ノ形ノ奇ナルヲ以テ捨ルニ忍ビズ之ヲ後ニ殘サント欲シ遂ニ刺虫針ナル者ヲ以テ其ノ体ヲ刺セリ其ノ時過テ其翼一羽ヲ損落シタルハ實ニ遺感ニ堪ヘザル也

獨逸ホック氏讀本ニ「アマイゼレロエーウエ」ナル虫アリ最モ善ク之ニ数似シ毫モ相違セザル者也抑モ此ノ「アマイゼンロエーウエ」ハ凡ソ所々ニ来ル虫モ別シテ砂地ヲ愛シ常ニ茲ニ止ル或ハ小川及ビ牧場ニ於テ飛揚ス此ノ動物ノメスハ夏ノ前ニ去ラントスル時ニ當テ凹道ノ側ニ於テ雨降ノ時ト雖モ毫モ心配アラザル所ノ此ノ卵ヲ砂中ニ生ミ是ヨリ数月ヲ經テ翌年ノ春ニ至テ其ノ卵孵化シテ内ヨリ六足ノ有スル蛹蛉生ズ故ニ又「アマイゼンロエーウエー」ヲ蛹蛉トモ稱ス常ニ蟻等ノ如キ小虫ヲ食シテ其ノ生活ヲナストイフ

下谷区下谷南稲荷町廿一番地

父 卯之助

砂

下谷区下谷稲荷町廿一番地

父

卯之助

[illegible]

十月九日 [illegible]

田中 [illegible] 殿

砂桜子圖説

田中芳男

東京大学総合図書館

ウズムシ　スリバチムシ尾州　アトサリムシ　アリジゴク
ハ■ッコ信州　ママッコ江戸

砂挼子(ダ)　（倒行狗子　睢蚑　爾雅翼ノ異名

砂挼子ハ石間及檐下ノ乾沙中ニ棲ミ擂盆(スリバチ)ノ如キ旋孔ヲ作ル小ナル者ハ径五六分大ナル者ハ径リ三寸許自ラ其孔底ニ潜居ス他ノ小蟲孔邊ヲ過レバ軟沙崩レテ孔底ニ落チルヤ汝挼子鉞ミテ沙中ヘ引入レ液ヲ吸テ之ヲ殺ス吸終リテ其屍ヲ孔外ニ擲ツ

砂挼子ハ形大豆ノ如ク頭扁クシテ挺出シ二個ノ角アリ六足全身灰褐色背ニ八個ノ横皺アリテ二十個ノ黒点アリ灰色ノ毛全身ニ満ツ行ク

東京大学総合図書館

時ハ常ニ倒行スル故「アトサリムシ」ノ名アリ二角ヲ以テ砂土ヲ擲チ旋孔ヲ作ル其動止甚奇ナリ」
文久三年亥五月此虫ノ大ナル者四個ヲ得テ盆中乾沙ノ中ニ畜ヒ日々小虫ヲ與ヘテ食セシム六月ニ至リ旋孔見ヘズ掘テ之ヲ見レバ三個ハ異ナルヿナシ一個ハ無患子大ノ沙丸ヲ作ル其低沙中ニ埋メ数日ノ後掘テ之ヲ出スニ沙丸四個ヲ得何レカ先キノ丸ナルヲ知ラズ又沙中ヘ埋ムヿ元ノ如シ然ドモ羽化シ太シヿヲ畏レ紗ヲ其上ニ掩フ六月下旬ニ至リ一個ノ沙丸一方ニ孔ヲ穿チ蛹ヲ脱シ羽化シテ出ヅ即チカゲロウトンボハ他ノ三個モ亦続テ出ヅ皆同物ナリ

カゲロウトンボ　ウスバカゲロウ

蚊蜻蛉　三才圖繪

蜻蜓ノ属ニシテ身長一寸二三分羽長寸半黒色ノ二角アリ背暗褐色身灰色ニシテ処々暗褐色ノ斑アリ腹灰黄色ニシテ斑ナシ四羽灰白色ニシテ甚薄クシテ碧光アリ本狹ク末廣シ末ニ近キ処ニ一ノ白点アリ留ル時ハ羽ヲ合シテ身ヲ掩フ此虫ハ夏月ノ夜飛テ燈火ニ近ヅクリ羽力ナクシテ飛ブヿ遅シ

林娜斯本草第十二巻ニ蚊蜻蛉及沙挼子

ノ圖アリ Jaasvlieg. 和蘭 Lemelobius. ギリシヤ語之

第四種ニシテ羅甸名 Formicaleo. 蘭名 Mieren-
leeuw. 同

林奈 Formicaleo. 羅甸 Mierenleeuw. 蘭

英字書 Myrmeleon formicaleo. 羅甸
Antlion. 英吉利

獨逸蟲譜 Ameisenlöwe. 獨逸 Myrmeleon. 羅甸
Myrmeleon. 佛蘭斯

林氏徴候ニ曰 其羽雲ノ如ク紋理毛ノ如ク末廣ク
其身粗糙ナル者 其説甚精シ然レ𪜈剰長ナル故畧シテ

金花堂

左ノ譯説ヲ載ス
デュボイス動物記畧ニ砂挼子ノ圖アリ其説ニ曰 羽化シタルモノ別ニ名ナシ
此醜キ小蟲ノ圖ヲ見テ十分ト爲スコト勿レ左ノ諸説
ヲ参考スベシ 此蟲沙挼子ノ時ハ汚灰色ニシテ黒点ア
リ大抵十ヶ月又二年ノ間ハ其形变スルコトナシ其後
繭ヲ以テ作リタル 林氏ニハ白色ノ細絲ヲ以テ紡リ作リトアリ 小毬ノ中ニ蟄スルコト六週
或ハ二個月ニシテ美キモノニテ大ナル蜻蜓ノ属ナル其頭栗殻
色ニシテ碧色ノ眼アリ其身真珠様灰色ニシテ灰色ノ羽
アリ其上面ノ末ニ数個ノ黒斑アリテ相對ス 砂挼子ノ時ハ甚
タ静ナル者ナレ𪜈羽化スルニ至リテハ飛翔甚迅速ナリ甚

東京大学総合図書館

貪食セリ」沙挼子ノ食餌ヲ求ムルノ態ハ衆人ノ能知ル所ニシテ其居ハ軟ナル沙地ニ於テ漏斗状ノ旋孔ヲ作ル深サ四拇許（我一寸三四分）自ラ其底ニ潜ム若シ其孔ノ周囲ニ無心ニシテ来ル虫アレハ軟沙崩陥シ其虫孔底ヘ転入シ瞬間ニ砂挼子ノ餌トナル」云々

按林氏ノ圖及チユボイス説ニ翅ニ黒斑アリ是和産ト稍異ナリ然氏他ノ諸説ハ皆ク符合ス

又林氏 Gaasvlieg. 第五種

羅甸 Formicalynte. 和蘭 uitheemsche Mierenleeuw. 他国ノ砂挼子ハ其羽硝子様ニシテ斑ナク末應シト云徹アリテ前種ヨリ大ナル

フヲ云ヘリ然レハ此品ヲ以テ和産トセラレ可ナランカ

文久三年癸亥孟秋於東都一橋門
外蟠竹書館記之

信濃　東陽齋　田中芳男

今日ヨリテハ蔣子成徒
不才ナルモノ明ナリ
十六年第六
田芳

……ニ吹スレハ大ナル黒
……ヲ手ニ揺盆樺ノ穴
食フ故ニ スリバチむし
えんニヨリ アトサリむし
数月ノ後ニ蛹ト
トンボ トミフ 甚数
……又 オホウスバカゲロウ
トミセ 黒点ナキ者ハ カモナリトンボ 又フバケトンボ 等ノ俚言アリ
此形恐ク同物ナラン 蜻蜓ト甚属近ケレト 蜻蜓ヨリ柔弱ニシ

金花堂

蜻者 蘇頌図経ノ説 負勞ノ蒼

此類ハ（スリバチムシ）ノ羽化スル者ナレド尋常ノ品ニ比スレバ大ナル異

ナリトス而シテ此類ノ羽化セザル者ハ皆乾ナル土砂中ニ擂盆様ノ穴

ヲ作リ其中央ノ底ニ棲ミ小虫ノ来リ墮ルヲ捕食ス故ニ（スリバチムシ）

又（アリノジゴク）等ノ名アリ 又其行事ハ退却スルニヨリ（アトサリムシ）

（トンボツク）砂挼子（又）世漢名ナリ 砂中ニ在ル事数月ノ後ニ蛹ト

ナリ羽化シテ出ルナリ（ウスバカゲロウ 又カゲロウトンボ トモ）ス 其類

中形大ニシテ緑色翅ニ黒点アルヲ（ナガハカゲロウ 又ウスバカゲロウ）

トス 其黒点ナキ者ハ（カモナリトンボ 又ヲバケトンボ）等ノ俚言アリ

此外恐クハ同物ナラン 蜻蜓ト其ノ属近ケレド 蜻蜓ヨリ柔弱ニシ

為[illegible]儀

仲[illegible]右

[illegible]

テ郁子（カクコウ）悖挐ニ近シ　但シ駿河ニ正画ト云　一名カトンボリ　悖挐ノ属ニシテ其出ル小ナル形亦異ナリ　正画ト云ハ本国ニテマイマイ

ナリ　五月偶ノ義ナリ　五月蠅ニ出ルニ駿河ノ産モ亦其趣

ヲ同フヌル

スリハサハ　英名 Sweet-lion　蛾獅ノ義ナリ

（羽衣スルモノ同名ナリ）即チ蛾ヲ捕食スルヨリ獅ニ譬ヘ独我蛾

地獄ト云フニ至テハ　其他羅甸名　独乙名　仏名　等皆同義

ナルニ並ニ者ナリ

幸ヒ茲ニ尋常西書ヲ見テ共ニ義中ニ入レ比較ニ供ス

十六年九月十五日

田中芳男

諸先生之説

徒之 證国書之一

所書也 編纂

掛之指 教 被成

下度

[illegible]候条

正書之

其主之 [illegible]

高

一寸御出の節 なり生
あなたゟも御出の儀 御
御調の上 原氏
御出候ハヽ御申
しらせ被下 松本
まいらせ候 早
かしこ

一　五月二十四日

雑賀修從

田中菊四郎殿

右者此度[illegible]

[illegible]

[illegible]

東京大学総合図書館

田中芳男殿

[illegible]

東京大学総合図書館

ヲ

藤波三位殿

一　弐百ら十三号

東京大学総合図書館

アカアリ

上野吾妻郡ノ山野ニ方言アカアリト云アリ大サ二分余ト二分未満ノモノト交ル又二分未満一分半位ノモノ多シ其尺ナリ胴ト頭卵ト淡赤色腹部淡黒ニ脚亦淡赤ナリ東京ノ黒蟻杯ト異ナラス大サナレモ胴部共ニ細ク大ナリ概シテ東京ノ赤蟻ヨリ黒リ

此アカアリハ林中又矮小ナル樹木ノ野等ニアレモ窩穴深影ノ地ニハ見ヘス其窠ハ落葉ヲ集メテ堆ク積ムノミ故ニ其所在ニ随ヒ其材料同シカラス多クハ松葉松花芽片樹皮炭屑細枝等ヲ以テ樹下根辺等ニ一団ヲ敷固ク且ハ大サ尺許ニシテ至テ脆シ秋ヲ突ハ忽チ崩ル卵ハ米粒状ニシテ拉テ多数アリ

又蟻ヲ殺シ捉フルニ人手ニ觸レバ驚ス又歩行速ナレバ巣ノ破ルヽ中卵ヲ
持チ疾走シテ隠ルヽ「迅カナリ
聞ク熊ハ此蟻ノ卵ヲ好ムニヨリ彼来レバ必ス巣ヲ掻キ破リテアリ
猟師ハ又此蟻巣ノ破レタルヲ見テ熊ノ来リシヲ知ルト云フ

右ハ去月上野ノ地ニ至リ目撃セシヲ記スルノミ
明治十八年九月廿三日
田中芳男記

蟻ノ樹ヲ害スルヲ防ク法

阪田春雄曰 赤阪ノ地ニ金松（カウヤマキ）ノ庭木アリ（長サ囲リ五尺許）蟻其木心ニ巣ヲナシ蠹食スル「甚ダシク十間又高キ所ニ孔ヲ穿チ出入シ其根際ニモ大ナル空洞ヲ生シ而シテ蟻ノ皮上ニ群ル「無数ニシテ皮面ヲ見ルベカラザルニ至レリ（逆ニ於テ泥土ヲ以テ塞グモ数日ニシテ孔ヲ穿ツ「初ノ如ク遂ニ如何トモスベカラズ止ムニ至レリ）一昨年ノ秋遂ニ風ノ為メニ倒サレ因テ十月同氏ノ邸（西ノ久保桜川町）ヘ移シ植ヘシニ。蟻ノ生スル「従前ニ異ナラズシテ次第ニ樹ヲ害スルノ畏アリ因テ人々ニ防禦ノ方法ヲ問フ「一ナラズ 其内麻布ニテ庭木ノ植木職ナル吉ヘ問フニ同人ハ小便ヲ灌ゲバ容易ニ去ルヘシト答ヘシモ不潔物ヲ庭木ニ灌クハ好マシカラザルヲ以テ試ミモセズ却テ山椒ノ煎汁又烟草茎ノ煎汁等ノ熱スルヲ灌キシニ一時ハ散乱セシガ復集ル「

原ノ如ク到底除ク能ハザルニヨリ十月肥取ニ命シテ小便ヲ灌ガシメ上
部ノ孔ヘハ鉄葉製漏斗状ノモノヲ以テ注入セシメ翌次日ニ至リ之ヲ換
スルニ蟻悉ク死シタリ而シテ午后再ヒ集マリシナリ遂ニ跡ヲ絶チ
樹ニ之ノ害ヲ見ズ此蟻ハ黒色ニシテ長サ三分許、、蟻ト称スル
モノナリ蓋シ溺ノアンモニヤ蟻体ニ触レバ蟻酸アンモニヤト成ルニヨリ
溺甚シ蟻ニ触レバ忽チ彼ノ体ニ化学的ノ変化ヲ起スニヨリ夭スルモノ
ナラン

右坂田春雄君ノ話ヲ記スル所ナリ

明治十五年十月二十日

田中芳男

マルヤ

樹木ヲ害スル蟻ヲ防ク法

青森 赤坂表三丁目十四番地ナル松郎内ニ金松ノ庭木
アリ其大サ囲リ二尺許而シテ何ノ日ニ之ヲ植ヘ又何ノ日ニ蟻
ノ卵ヲ附キシヤヲ知ラス思フニ久シカルベシ夫レ蟻ハ其庭
木ノ中心ニ巣クヒ甚根際ニ近キハ大ナル空洞ヲ生ス而シ
テ蟻ノ樹皮ニ群ガルヿ無数甚皮面ヲ見ルニ一カラザルニ至レリ
之ニ就テ泥ヲ以テ其孔ヲ塞キ又椿ヲ以テ其根ヲ搗キ
堅メタルモ日ナラズシテ元ニ復シ如何トモナシカタク遂ニ一
昨年九月十五日ノ夜大風ノ為メニ倒サル因テ又元ノ位置ニ
理メタレ共蟻ハ前日ニ倍シテ其樹ヲ困テ為ニ樹葉ハ黄

二月二十日倉ノ大全
雄ノ樹脳中ニ多ク去ル
ハ蟻ハ黒色ニ黒蟻ハ
異リテ之ニ多ク
アリ山椒ノ臭気
シ是即山椒蟻ノ名
ノ起ル所ナラン

色ヲ呈シテ枯ニ垂ンタリ故ニ昨十四年十月十二日之ヲ芝区
西ノ久保櫻川町ノ私邸ニ移ス此際其蟻ヲ攘ヒ去リテ後
植スト雖モ後チ三日ヲ出テスシテ又蟻ノ生スルヲ謂フト也前
ニ異ナラス（蓋シ新ニ生出スルニアラスシテ孔中等ニ潜伏セルモノナラン）
従来ニ樹ヲ害スルノ蟻アリ因テ人ニ之ヲ駆除防禦ノ方法
ヲ問フニ其法ナラス麻布六本木町ノ住植木屋卯之助云
フ小便ヲ灌ケハ容易ニ去ルト又云フ明治廿年ノ比本所三丁目
裏河岸大黒屋半兵衛庭内樹ニ蟻ノ害ヲ受ケシ時ニ小便ヲ
以テ之ヲ除ケ又両三年前内務省垂某菊見車覧ノ内ニ
アル枯モ同手段ヲ以テ其害ヲ免カレ目下若ニ成木ス（内務

省ノ松樹ハ昨年上野公園ニ移シタリ）営ス此他数個アリト
雖トモ皆其効ヲ著セリト余其説ヲ信セサルニアラサレ共不
潔物ヲ庭井ニ灌クハ好マシカラサルカ故ニ試ミモセス却テ魚
骨ヲ以テ之ヲ集メ一挙ニシテ取去ラシコト企テタリ然ルニ蟻ハ之
之ニ侵ラサレハ寸効モ見ス甚困窮ヲ竹之助ニ語レハ彼云フ
之レハサンコウ蟻ト唱ヘ一樹年ノ外他物ヲ喰ハス能ク尋常
成木ヲ望ムニ於テハ之ヲ熔ストナ雖モ又得ラス即チ雅味ヲ
帯ヒタル樹木ヲ得ントスル欲セハ偏ニ此蟻ノ属ナヲ害ス蓋シ
其香気山椒ニ類似ス故ニ如カヽルサンコウ蟻トハ唱フルナリト
実シテ其香気ニ僻カリシサ物又毎ヵ津丸従ニ石脳

由テ少量ヲ之ニ灌キタル由ナレド稍散乱シタル而已ニシテ其
効ヲ見ス又石炭酸ヲ用ヒント欲スレド一説ニ樹木ニ餘毒アリ
ト云フヲ以テ止ミ最後ノ策ニ議リ先ツ蕃椒ノ煮汁又烟草
葉ノ煎汁等ヲ灌キシニ洞中ニ潜伏セルモノモ亦威ニ驚シ出
テ最高ノ孔ヨリ下ハ酒ト蟻ヲ以テ樹底ノ全面ヲ掩ヒ上下奔
走其有様譬ヘルモノナク又奔出シタル蟻ノ色ハ平常ヨ
リモ尚ホ黒クシテ且ツ光輝ヲ増シタリ時ニ屢之ヲ灌キタルニ
一時ハ大ニ散乱セシカ次日ニ至リ又旧ニ復シ加之其傍ラニア
ル松ハ蜜柑ヨリモ甚蘚サ劣ケテ同ク生シ断ニ此樹ニ及ホスノ状勢アリ
茲ニ於テ去年十二月三日知之助ニ命シテ小使大納式平ヲ雇

ドシメ上部ノ孔ニハ鉄葉製漏斗状ノモノヲ以テ注入セシメタルニ
即時蟻ハ運動遅々トシテ困苦ノ状ヲ呈シ或ハ即死スルモアリ
多ク次日ニ至リ之ヲ點見スルニ宛モ黒胡麻ヲ以テ撒クガ如ク
其樹外ノ根際ハ堆ク蟻ノ死シタルアリ然ルニ尚ホ庭中處々
ニ二三個ノ奔走スルヲ見ル其後日ニ至リ一ノ影ヲ見ルナク全ク
跡ヲ絶チ樹ニサシノ害ヲ見ス其此蟻ハ黒色ニシテ長サ大
約三分ナリ
案ニ溺ノ蟻体ニ觸ルヤ否ヤ溺中ニ遊離シタル暗母尼亜ハ蟻体ヲ
組成セル即チ皮肉ノ一部分タル蟻酸ヲ取リ化合シテ蟻酸暗
母尼亜ト云フ一ノ塩類ヲ生スル為メニ暗母尼亜ハ蟻体ヲ腐蝕

スルモノナラム其傷ヤ恰モ強硫酸ヲ人体ニ觸レ肉中ノ水分ヲ奪ヒ去リ之ヲ腐蝕スルト一般ナルカ先附ノ儘ヲ記シ謹テ明示ヲ仰ク

明治廿五年二月

坂田春雄

田中先生

梧下

蟻

儒勃乙和動物誌ノ説

蟻類ハ蜜蜂ト同シク雄雌并ニ彼夫（ハタラキド）（雄ニモ雌ニモアラサルモノ）ト名クル者ノ三種アリ」此巣窟ノ形ハ丘陵ノ如クシテ砂土木葉麸質等ノ者ヲ以テ造成シ窟内ニ夥多ノ小室ヲ具ヘ其間ヲ通行自在ナラシムル為ニ多ノ小路ヲ穿テリ」此虫夏月ノ間ハ住居ノ造営ト冬月ノ食餌ヲ用意スルノコトニ勉励セリ其性忍ンベリ且ツ辛労ニ堪ル者ナレバ適意ノ食餌ニ遇フ件ハ遠隔ノ処タリトモ之ヲ持来ス縦令其物吾身ヨリ更大ナルモ種々ニ工夫シテ或ハ牽キ或ハ押シテ遂ニ難ナク餌倉ヘ持来レリ」又若干ノ難ニ逢フベキヲ前知スレバ更ニ倦労セズシテ忽チ他ノ安全ナル処ヘ轉移シテ新ニ造営ヲ始メリ」又屢別種ノ蟻ト相戦フヿアリ其時ハ隊伍

ノ順序ヲ整列シテ戦ニ出ヲ其怪我セル者ハ助ケテ之ヲ返シ又他種ノ
者ヲ生擒セリ若シ囚虜トナルトキハ其窠ノ奥ヘ連レ行キ厳ニ之ヲ使
役セリ

白蟻一ニ「テルミート」ト称スル者ハ廻帰線下ノ地方ニ産ス此ノ
蟻ハ諸蟻類ノ内ニ於テ最奇異ナル種類ニシテ其巣窠ノ外部ハ丘
陵ノ如ク多少満斗状ヲナシテ通例塔糖ノ形ヲ現セリ之ヲ地上ニ作シ
ノ高サ一丈許ヨリ尚ヤヽ高キニ至レリ

白蟻ハ林娜氏ノ説ニテハ両印度人ノ最困苦スル者ト称セリ実ニ
此蟻ノ成セル害ハ恐ルベキ事ニシテ家作器具家什商品等
総テ木材ヲ以テ製造スル者ハ悉ク穿食損敗セシメ之ヲ防クヿ
極テ難ケレバナリ

或人ノ曰此蟻若シ人家又庫倉ヘ来ルトキハ其内ニ蔵スル所ノ
器物ハ金具硝子等ノ如キ堅キ物ノ外ハ悉ク其残害ヲ避クルヿ
ナシ彼ノ最嗜ムル食餌ハ木材ナレバ澤山ナルモノナレトモ害スル者ノ
数多ニシテ器械ニ製スル者ヲ好メバ時トシテハ廣キ室内ノ木製ノ物
モ一夜ニ悉ク損害ヲ受クルヿアリ此蟻ハ其巧ヲ始ムルニハ地中ヲ穿ケ
来リ其器物ノ外面ヲバ妨害セズシテ遺ス等一種固有ノ狡猾ナル性ヲ
具ヘリ故ニ通常堅キ器物ノ内部ヲ害シ外部ヲバ傷セズシテ遺ス
其巧ヲナス間ハ粘土ヲ以テ蔽ヒ隠シテ再ヒ業ヲナシ遂ニ其工ヲ終ルニ
至レリ

此蟻ノ好テ残害ヲナス了ハ廻帰線下ノ地方ニ於テ植物ノ随意ニ
成長スルヲ拒ク為ニ一種ノ性ヲ賦セラレ之レ動作ニメ更ニ力ヲ惜ク了
ナキ者ナルベシ縦令大ナル獣モ一月時間ニ為シ得ザルノ事ト雖トモ
此蟻ニ於テハ其週間ニ運輸ヲナセリ今茲ニ最大ノ樹アリテ倒レ人之
ヲ管セザレバ風雨ノ為ニ腐敗スベシ然レ圧此蟻ニ任スルトキハ全ク持チ
去リテ一ノ痕跡ヲ遺ス了ナシ 樹木ヲシテ漫ニ腐敗ニ便クヲ救フ
ノミナラス又植物ノ世界ニ於テ非常ニ成長セル大樹ノ為ニ蔽ニ
タル他ノ植物ヲ救フ者ニシテ自ラ好機會ヲ得タル者ト見ヘタリ

蜂ノ名　十月六日

- Xylocopa caffra, Carpenter bee.　木匠蜂　ウード国
- Tenthredo　スペイン
- Bombus orientalis terrestris humble bee.　地蜂　ウード国
- Apis fasciatus, banded bee.　ウード国
- Vespa vulgaris, wasp.　黄蜂　仏蘭西国
- Sphex [illegible]
- Vespa crabro, hornet.　胡蜂　大黄蜂
- Osmia, mason bee
- Pelopoeus, mason wasp
- Osmia papaveris, upholster bee.

Polistes gallica	ヒバチ　三十八図　アカバチ
Vespa gallica	ヒ？七八図　アカバチ
Megachile, leaf cutting bees.	廿三九図　截葉蜂
Slender waisted wasp	蜂　細腰蜂又蠮螉

草稿

本綱　胡蜂ノ名ハ大黄蜂ノ一名ナリ

草稿李時珍ハ[illegible]

クマバチ　大黄蜂

此雄ナルハ長サ一寸許　雌ナルハ長サ一寸五六分許アリ

従来別種ナルトシテ雌ナル者ヲスヽメバチトテ云ヒ

漢名胡蜂トシ　丹洲千虫譜ニハ虎頭蜂トナリ

是ハ堂社ノ棟梁ノ下又ハ樹上ニ巣ヲ営ミ

圓ニシテ外面褐色雲紋ヲナス大ナルハ径リ尺余

アリ　頭黄赤色　胸部黒ク縦ノ方ニ黄赤ノ不アリ　腹

部ハ黄赤色ト褐黒色トノ環條ヲナス　其環ノ数

六個アリ　此雌ナルモノハ大サハ実ニ蜂中ノ最大ナル

モノニシテ生活飛翔スルノ時ハ小鳥ノ勢アリ

佛書兵語 蜂ニ雌雄ノ区アリ

雄 佛名 Guêpe frelon, M.

雌ハ 〃 〃 〃, F.

志し年ヘン 補 Vespa crabro, Linn.

貝氏博物学 Hornet. 英名 スチーブン氏

西洋ニハ右ノ大種アリ Vespa vulgaris. Wasp.

アリ 日本ニ産スル 毎日採ル所ノモノナリ

黒蜂(マルバチ)ニ二種 甲乙ニ分ツ

甲乙共ニ胸部黄色 腹ハ黒色 翅暗褐

色 脚黒ク 鬚モ大黒色 其黒ハ下ハ即埋ニ突

甲

両眼相離レ 一頭大ク 脚毛長多クシテ 足頭(アシクビ)ニ連ナテ色黒シ

Xylocopa 属ハ 脚裸ニテ 木匠蜂ノ属ナリ

乙

両眼相接シ 頭小クシテ眼ハ甚ダ大ク 脚毛短クシテ

其ノ黄ク帯ブハ 其他ノ異ナルニ分明ナリ

別ニ出ス

別ニ出ス

ベボハチ カツスル氏曰 Apis muscorum.

Bombus ノ如キ 即地蜂ノ属ナリ

スガラリナ

此蜂名未ダ是ナラズ

気ヲ付ケテ ~~大ハチ~~ キヒエー ウード小本

Vespa vulgaris Common wasp.

スヾメバチ 及 クマバチ ウード小本

Vespa crabro Hornet.

不詳 又遺

アカバチ カツスル氏曰 Vespa gallica ニ当ル

大 両翅ノ間即背上ニ二條ノ縦ノ黄條アリ

腹ノ環ヲナス黄色横條 ウチリテ條ヲナス 其他ハ黒赤色多シ

ビハバチ カツスル氏ニ因ハ Vespa ノ属ナリ

小 両翅ノ間真黒ニシテ條ナシ

腹ノ黄條 ウチリナクシテ色淡シ 鬚口腹下等黒色ナリ

右ハ蜂ニ Odynerus, Pompilus, Bembex

ノ三属ニ似タレバ 一トシテ同様ナラズ

東京大学総合図書館

ベボバチ　武州保岳ノ名

明治十年十二月下旬東京下谷練塀町十七番地

滕本伊明氏方ニテ~~[illegible]~~引窓ノ家根ノ間ヨリ出入スル

ヲ見テ同七月ニ至リ其地ヲ探ニ其巣下ニ俘トシテ得

タルニ其巣ハ古布切綿紙屑等ヲ集メ

テ其内ニ住居ヲ営ミ~~[illegible]~~小繭状ノ窠

穴アリテ其口ヲ以テ閉キタリ其窠穴ノ列ハ甚タ

不規則ナル也其数~~[illegible]~~三四個アリ（原来巣ハ三層ヲ為ス此巣ハ二層 天気ヲ得テ居ルモノ）

此蜂ハ家蜂ニ類シ者ニシテ雌雄女王、雄、役夫

ノ三種アリ雌ナルハ長サ八分幅四分許全体深黒

色ニメ細毛アリ黒黄斑ノ如シ唯尻ノ二環節ハ黄赤色
ニシテ毛アリ翅ハ長サ六分餘アリ雄ハ雌ト同形同色ニシテ
唯小ナルノミ長サ七分幅五分ニ過ギズ役夫ハ雄ヨリ稍
大ニシテ長サ五分幅三分身黒色ニシテ黄毛アリ尻ハ
黄赤ナル事他ト同シ雌ト役夫ハ嘴長ク距ヲ具ス長サ五
分餘アリ此雄ナルハ往々花ニ集ルヲ見ル雌ノ如キモ
牙鋭ニ具ハル故ニ捕虫ノ中ハ往々掠獲スルコトアリ
蜜蜂ノ王ノ如ク単ニ在ルノミニアラザルヲ知ル
按ニラトレイユ氏ノ伝ニ Bombus 属アリ Bombus muscorum
Cornu. ウード氏ハ英名 Humble bee トアリ此名

土蜂 之説 六ノ五

ラカツセル氏ハ Bombus terrestris ト土蜂ヲ別ニ
Apis muscorum ノ圖アリ高仁タリ又某氏
博物学原書 humble bee Apis bombus
トアリ之ヲ蚊蜂ト訳スモ英華字典ハ土蜂ト
訳セリ土蜂ハ昆虫スガラバチニ充ルモ本
綱ノ説ヲ演ムニ變足ヲ載スヘヲ見ルスガラバチ
ハ蜜ナシ且赤黒色最大トアルハスガラバチニハ
此スニテ此ベキバチニ適セリ
本ノ諸説ニ拠ハ漢名ヲ土蜂トシ和名ヲ英名ニテ
Humble bee トシ齧リ羅甸ノ形容詞ナ

きワナ Bombus sp.: (トスペシ)

明治十二年九月二十四日　田中芳男

ホレンホーン　和蘭虫譜

Bombus

体甚タ粗糙ニシテ髭ノ第一節ハ甚タ長ク第二ハ細ニ
上唇甚タ闊ク上顎ハ鈍ク圓クナリ其ノ小歯ヲ内部ニ
備フ外部ニハ毛織様ノ小毛ヲ生ス下顎ハ長クシテ外
部ハ毛アリ而シテ長キ搦鉤状ノ角様ノ部分ニ終ル下唇ハ
長キモ然レ氏下唇ノ感角ヲ短シ其感角ハ四ノ節ヨリ
成ルモノナリ一眼ハ甚タ長形ナリ翅ハ三ツノナカナル肘
胞ヲ持ツ
和蘭ニハ其數十二種アレ氏其内

コメツハチ

本郷金助町七十二号

田中芳男殿

親展

大宿十一日

松村

居合セヌ是ヨリ是迄見スルヿナレ

第一 Bombus hypsiarius, L.

黒色ヲ赤キ尻アリ 其眼ハ其脚ヨリ小サシ 其ノ翅ヲ (キルビーキースン説)

第二 B. muscorum, L. カウモル向 ヒウエル目 Apis —

ウード humble bee

黄色ニシテ橙黄色ノ背アリ 褐色ノ足ナリ (キルビーキースン説)

第三 B. terrestris, L. (カウヒュ Humble bee)

(キュビエー目 カヌル説) (ミヨンスチーブンス目) Apis bombus. 地蜂 共有相同

第四 B. lantonum, L.

黒色ニシテ三ッ茎保アリ [illegible]

右ノ説ニ拠レバ日本ノベホバチニ近キモノハ第一種ナルベシ 名辨

南オルコ島ニテラードー氏 B. orientalis アレ氏ヨリ見レバカモ—

柞蜂ハ蜂ノ属此種
ハ偏ク東京ヨリ大阪ニ至リ柳唐
黄ニシテ其翅極郡林中
ニ於テ一ツノ体ヲ謂フ蜂虫ヲ
ハツトハ此虫ト異様ナリ是レ虫ノ詫
テ見ル処ナシ此ニ於テ館ノ園丁
居合セ此ノ九是ハ是レ見ル処ナシ

Bombus lapidarius, L.

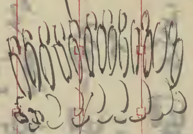
ト云其形如左

此虫画ヲ而学瀑ニテ採リタルス

大キサ大ナル
芋ノ一倍
位ナリ

角ハ

此肉骨



黒色ニテ軟硬ナリ

此脇及腹ハ青色

芋虫ニ似タルヲ見ル

其分芋虫ニ似タリ

此角森ノ如ク生ス此角ノ接キ所ハ虫痛ヲ感スルヲ見ル

角脱スレハ其痕ハ黒シ

明治十五年亀屾創製

右ハ如何ニモ奇異ナルモノニ而何ドレ

虫ヤ何ニ生スルモノヤ御尋問ニ而ニ

度承リ度

十月廿四日

田中芳男殿

蝱卵馬腹ヲ経テ羽化スル事

調所廣丈君曰 蝱ノ卵ヲ生附セシ草ヲ馬ガ喰ヘバ病ヲ発シ
後之ヲ糞ニテ出ス 其糞ヨリ蝱ハ羽化シ出ルナリ 馬腹
ヲ経ザレハ孵化スル事ナク却テ羽化スル迄ニ成長スルモノナリ
若シハ蝿ノ卵ガ蝗体ニ入リ蝗卵ヲ食シテ羽化スル事ノ類ナリ
此事英語ニ及ベルナリ

明治十一年一月三十一日 聞テ手記ス 田中芳男

洋書ニ拠レハ此層ハ鶏ノ毛ニ生シテ内ニ蝱蛆アルモノト同様ニシテ胃内ニ入リ
Oestrus Equi Bot-fly トヲリ胃内面ニ著キ
蛹トナリ後ニ天ノ一度ヲ経テ糞ト共ニ出テ其後羽化スルナリ 西洋ニテ胃

明治十五年龜峨創製

ノ收値ニ着テ多キナハ一合ノ量モアリ如此時ハ馬ハ大ニ疲労シテ
病ヲ生スト云フ右蚤ハ稀ニ翅アルアリ是亦トノ蝨即アジバイ
ト名ヅクル者ニコレアリ一名十ミアリ一種トハ形状モ異ニ多ク
別物トシテ区別シ鳴門時ニ区別ス

八一年十月六

田芳再記

蚊虻ハ沮洳ノ地ニ生シテ小動
物ノ血ヲ吸ヒ否ルシテ蚋トナルモ
ノニテ虻科(Tabanidae)ニ属シ
(Tabanus bovinus)大虻
又牛馬ノ体中ニ寄生
スルハ(Oestridae)[illegible]蝿

蠅ノ毒ノ話

[illegible]ナリ

[illegible]スヲ

防クナリト ウグヒスニ蠅ヲ与フルハ忽チ食スレ𪜈直ニ死ス

モノナリ ヒバリノ如キモ蠅ヲ食ヘハ死ス 甚弱キニハ木クハイ

ハ最モ毒ヲ畏ルヽモノニシテ速ニ斃ル カナリヤハ蠅ヲ決シテ

食セサレハ甚害ヲ受ケズ 又カナリヤハ菜ヲ好ミ食スレ𪜈蠅ハ

更ニ食セズ 其性ノ異ナル如此 故ニ雀ハ蠅ヲ食フモ毒ニ

中ラザルナラン

明治十四年七月十二日 市川兼恭氏ノ話 田中芳男記

[illegible]

蠅ノ毒アル話

蠅ヲ食スル小鳥アルニ亦食シテ直ニ死スルモノハウグヒスナリ

トウグヒスハ蠅ヲ捕食スル故ニ籠外ニ障子等ヲナシテ之ヲ

防クナリトウグヒスニ蠅ヲ甚タシハ忽チ食スレハ直ニ死ス

モノナリ ヒバリノ如キモ蠅ヲ食ヘバ死ス其外キニバ木（クツバイ）

ハ最モ毒アルモノニシテ速ニ斃ル カナリヤハ蠅ヲ決シテ

食セザレバ甚害ヲ受ケズ 又カナリヤハ菜ヲ好ミ食スレ氏雀ハ

更ニ食セズ其性ノ異ナル如此 故ニ雀ハ蠅ヲ食フモ毒ニ

中ラザルナラン

明治十四年七月十三日 市川兼恭氏ノ話 田中芳男記

ヨキ Gad fly 牛蝿

蠅ニ寄生ス細蛆ハ病牛ニ入リ

病ヲ起シ斃スコトアリ

羽化スルモノト云フ

チムシ 蠐螬

春晩ノ頃園圃ノ地中二三寸ニ白色
ノ蠐螬（十五ゥムシ）（アリノカハ）アリテ随処在ラザルノ地ナシ長サ一寸
許
五月ニ至リ右ノ虫ハ地上ニ出テ皮ヲ脱シテ羽化ス
一ハ金亀子（コガネムシ）トナル 金亀子ニ数種アレドモ
其大ハ金光アリテ大サ中等ノ者ニ

mastsen van Meikerken.
(Grub.) 英

一 昨夜ツチボタル採集シ飛翔調査致シ
候ニ之迄手ニ入候ニ付不取敢御送り申候
右ツチボタル當地方ニテ園ト申シ異ナリ居候大国ヤ
方言ニテ光トボシトモウジノモノトモ申シ或ハ雨ニ
モ依リテハ火ヲ見ルヲ以テ 方言ヲ是ニ混シタルモノト
存ジ候

ムギカラトンボ 雌
シホカラトンボ 雄
東京ニテハシホヤトンボト云モノ

九月廿日

田中信徳

ハ開ノ下

サエヱルツ検ニ科ニ入ル甲虫

Aspidomorpha lobata (Tortoise beetle) 金亀虫 キンチウ	黄履面ト同ジ
Megasoma elephas (Elephant beetle) カブトムシ サイカチムシ	サエヱル図
Calandra imperatrix (the empress snout beetle) ゾウムシ	象壁図
ホタル	
ワニガロイス	

萊菔害虫瓢虫ダマシノ了

該虫ハ黒色ニシテ稍ク蛎虫ノ食ノ所ノ瓢虫ノ類ナリ 現ニ某ハ
其子ハ八十月頃ノ初メニ羽化スレトモ 該虫羽化ニ先テ葉ヲ
害スル了甚シ 但シ其サルモノハ黒色ニシテ無毛 勝ニ似タル
モノアリ 故ニ該虫ヲ類スレバ又萊菔、蕪菁ノ類ヲ害スル
なり

該虫ノ駆除法ハ烟草ノ茎ヲ煎汁ト（五十匁ヲ壱斗ニ投入
四斗弁ノ割）ヲ注クヘシ
羽化セシ後ハ朝露ノ内ニ木灰、藁等ノ類ヲ葉上ニ振撒スヘシ
又ハ株元ヲスカシ両面ヨリ詰ムヘシ 所要ナリ

廿年十一月二日
田中節紀
右 蒔田ノ道ヲ経

農商務省

宮城縣下陸前牡鹿郡一般
ニ多シ 又桃生郡ノ方ヘモ蔓延ス
菜麦 稗ニ多シ 蕎麦ニモ
生ス 粟稗ニハ生セズ
明治廿八年十一月八日 録事吾ヨリ得

田坊

東京大学総合図書館

革薇害虫瓢虫ダマシノ一

成虫ハ黒色ニシテ他ノ瓢虫ト食フ所ノ瓢虫ノ類ナリ 現今ハ
幼虫ハ八月頃方色 絶テ害ニ羽化スレモ成虫羽化生長シ葉ヲ
害スル甚シ 但シ甚ダシカラズト雖モ 黒色無毛 膝翅ニ似タル
モノアリ 他ノ如キ成虫ノ類ナリ 又 革薇、蕪菁ノ類ヲ害ス
ナリ

駆除ノ法ハ 烟草ノ葉ニ煎汁(五十分ニ付凡凡
四五斤ノ割)ヲ注クベシ
羽化セシハ朝露アル時 石灰ヲ撒キ 類ヲ葉上ニ払落スベシ
尤モ本株ヨリ スカシ 函ニ集メ付ルモ 所要ナリ

廿年十一月二日

右 … 田中節記

青十五

欅蠹蟲考

該蟲ハ「ノシムシ」東京又「乃ノ字ムシ」房州ト唱フル者ノ屬ニシテ羅甸ニBostrychus.ノ義ナリ鉄鑿蟲ト稱スル甲蟲ノ類ナリ種名未タ詳ラスト雖モ松ヲ害スル蟲ニシテB. bidens.ナルト稱スル者其形態本蟲ニ均シク其大サ一分計ニシテ尾ニ二刺アリ本蟲モ亦二刺ヲ具ヘテ其体大ナリ故ニB. major.ノ名ヲ與ユヘキ歟

其長サ二分一厘幅八厘アリ其体圓柱形ニシテ前後切斷セルモノヽ如ク胸甲黒色濶大ニシテ全軀三分ノ一ヲ占メ殆ント圓形ニシテ前斜面ニ太小ノ刺ヲ生シ其後部ニ小瘤アリ蓋翅ハ暗褐色ニシテ小瘤状ノ突起ヲ縦列シ後部漸ク屈曲シテ尾ヲ蓋ヒ毎翅其屈曲部ニ一刺一突起ヲ有ス頭部最小ニシテ胸甲ノ下ニ隠在シ上ヨリ之ヲ認ムルヿ能ハス全身光澤アリテ黄褐色ノ短毛ヲ生セリ四五月ノ交羽化シテ本樹ノ弱枝及ヒ小幹ヲ蠧鑿シ大枝巨幹ニ及フヿ稀ナ

リ晴天暖和ノ日ハ木孔ヨリ出テ樹上ヲ逍遥シ或ハ羣飛ス朝夕ハ穴中ニ潜伏シテ致出スルヿナシ其卵スルヤ穴中ニ於シ既ニ孵化スルヤ其孔中ヨリ岐路ヲ穿テ各方ニ侵蝕ス其岐路ハ其蚰ノ漸ク生長スルニ随ヒ漸ク大ナリ此蚰ハ形チ蠐螬ニ似テ脚ヲ有セス頭部角質硬剛ニシテ自在ニ伸縮シ口部極メテ鋭利ナリ其体白色ニシテ硬毛ヲ疎生シ横ニ皺襞アリ翌春ニ至リ化シテ蛹ト成ル爾後数日ニシテ羽化シ亦甲蟲トナルモノナリ故ニ本年ハ速ニ第一第二及ヒ第三條ノ法ヲ施シ明年ハ第四條ノ法ヲ行テ之ヲ駆除スヘシ

第一條

蟲孔多クシテ萎状ヲ呈セルモノハ枝幹ヲ論セス速ニ芟伐シテ諸用ニ充ツヘシ

第二條

蟲孔アルモ未タ萎状ヲ呈セサルモノハ石灰ニ水ヲ注キテ極メテ濃厚ノ液ヲ製シ之カ煤若クハ牛ノ血液ヲ混和シテ早朝ニ其蟲孔ヲ填抹シ以テ其中ニ潜伏セル甲蟲ヲ窒殺スヘシ又粘土ヲ以テ之ニ代フルモ可ナリ

第三條

右ニ法ヲ施行スルノ際ハ素ヨリナリト雖モ尓後精天暖和ノ日ヲトシ両三回該被害ノ樹ヲ歴視シ該甲蟲ヲ目撃セハ速ニ捻殺スヘシ

第四條

明年三四月ノ交該樹ヲ歴視シ蟲孔ノ多クアル部ハ直ニ剪伐シテ速ニ燃材ニ供シ以テ該蟲ノ蚰及ヒ蛹ヲ殺盡スヘシ

東京大学総合図書館

明治十四年五月十五日

績木喜三

第一問ノ答　豆ノ虫

象鼻虫科ヒメサウムシ属

ヒメサウムシト稱シ学名ヲ Mylocerus griseus ト云フモノトセリ

第二問ノ答　栗ノ虫

此虫ハ未タ審ニセシ事無之ニ付確

東京大学総合図書館

明治十四年五月十五日

練木喜三

前記第一ノ四号ニ掲ケタル鱗翅類蛾属ニテ俗ニ栗虫ト称ス此虫ノ生ユルハ栗ノ開花中ニ該虫ノ母蛾花蕚ヲ穿テ実殻ニ卵子ヲ産付ス其卵適当ノ温ヲ得ル萼節ニ至リ孵化シ栗実ヲ喰ヒ生長ノ後栗ノ外殻ヲ喰ヒ破リ出以而シテ後化シテ蛹トナリ翌年ニ至リ羽化シテ蛾トナルモノナリ

六四 一一四 一二四 一二〇一 一〇八 一一 一〇九 一一〇 一二一 一一三 一〇七 二 一三七一

第二問 [illegible]作 [illegible]

雲[illegible]水[illegible]ハ[illegible]シ[illegible]

[illegible]ハ卵[illegible]孵化

[illegible]

又[illegible]

[illegible]卵ノ孵化期[illegible]

[illegible]

[illegible]

廿年十一月[illegible]

想像図五個

マキブミ 又ヲトシブミ 又ホトヽギスノヲトシブミ 東京ニテ タマヅサト云フ 虫

抱ノ新葉成長スルニ當リ葉ノ半分餘ヲ巻キ内ニ卵ヲ放チ孵化セシムル虫アリ其巻タル葉ハ尚枯レズシテ故ニ下垂シ風ノ為メ吹落サルヽ事多シ故ニ巻章(マキフミ)落シ文等ノ名アリ此卵化シ蛆状トナル迄ハ換シテ是迄何虫ナリヤ知ラザリシニ然ルニ目黒村辺ヨリ来ル人ノ話ニ曰ク該虫ハ象鼻虫ノ属ニシテ甲ハ黒褐色其他ハ座黒色ナリ長サ三分五厘許アリ其葉ヲ巻クノ動作ヲ実検スルニ先ツ巳ノ意ニ叶ヒタル葉ヲ撰テ其葉ノ三分ノ一又ハ分ノ一位ヲ本ノ方ニ残シ左右ノ葉肉ヲ喰ヒ横断シ

折リテ二枚重トナシタル図

三巻許ナシタル図

巻キ了ミ成ルノ図

右ハ本文ヲ助クルタメ書クルモノニシテ甚タ粗ナレ氏無キニ優レリ

全ク中筋ノミトシ而シテ又中筋ヲモ咬ミテ軟弱ナラシム而
シテ助状ノ筋ヲ一ヽ咬ミテ軟弱（ニシ）又葉ノ周辺ヲモ悉ク
咬ミテ軟弱ナラシメ全ク葉ヲ巻クニ便ナラシムルニ
至ル此間多ノ時間ヲ費シ又飽ク労ルヽニヨリ一時他葉ニ移リ
テ休息スル事アリ扨テ葉ノ中筋ヨリ折リ二枚トナシテ
周辺ヲ折返シ而シテ末端ヨリ巻キ始メ三巻許ニシテ一孔ヲ穿ケ
卵ヲ放チ入レ夫ヨリ次第ニ巻キテ遂ニ功ヲ終ルニ至ル此ノ
剋糸ヲ出シテ固メシ巻タル葉更ニ延長シ悉ナキハ口ヨリ粘
液ヲ出シテ接着セシムルカ如シ云々

明治十五年五月二十二日

田中芳男記

北海道蝗虫減少ノ理由

調所廣丈君曰曾テ北海道ニ蝗虫ノ群ヲナシテ飛翔スルニ
当リテハ蒼天ノ黒ノ如ク其声ハ雷ノ如ク喧キ
ハ即チ彼衆多ノ咀嚼ノ音ナリ玉蜀黍ノ如キ立所ニ外
皮モ葉モ食ヒテ忽チ子粒ヲ食ヒ尽シ土人ノ小屋ニ
集リテハ席ヲモ残サズ食フ時ニ寸青ヲ遺サズ往
ハ切歯ノ事ナリ
時ニ米人日本国ニ来リ蝗ノ卵ヲ取寄セテ此蝗ヲ食ヒ尽
サシムルハ駆除法ノ一端ナリト聞キ余リ迂遠ノ法ト思
ヒ耳モ止メザリシガ其後ニ至リ蝗卵ヨリ多ノ蝿ヲ

虫ニ為メニ蝗卵腐敗シ蝗虫ヲ撲殺ス其蠅ハ蝗ノ翼下
之所ノ体ニ着シテ卵ヲ蝗ノ体ニ産着ス其蠅ノ卵ガ
皆蝗卵ニ入リ蝗ガ土中ニ卵ヲ放了後ニ蠅卵化シテ蛆ト
ナリ蝗卵ヲ皆食ヒ気候温暖ナル時ニ至リ羽化シ
テ飛散スルナリ実ニ蠅ガ蝗ヲ食シ居[illegible]スナリト且
蠅ハ並ノ蠅位ノ小形ノ者ナリト云フ

按ニ蠅卵ノ化スル蛆ガ蝗卵ヲ食シ尽スハ理アルモ蠅ガ
卵ヲ蝗体ニ産着シ其卵ガ蝗卵ニ入ルハ少ク疑ナキ
ニ非レ氏聞ク儘ヲ記スルノミ

明治二十二年二月一日　田中芳男記

去ル明治十七年北海道石狩国
漁ハ其場合ヲ録ス韓ノ請ニ応シ田島
ニ於テ下々方ハ北端ニ甚シ蝗虫ノ蕃生セシ
地方ニ於テ秋季産卵後蝗卵ニ寄
生セシ蛆甚ダ多カリシ為メニ其秋蛆
ノ寄生多キ地方ハ駆除ヲ見合セシ所ハ蛆
エアリテ幾分カ駆除ノ助ケト為リタル由ナリ

刈生史充
[illegible]兼任
[illegible]孫三郎
[illegible]
[illegible]

帰京ノ際数個ノ蛆蛹ヲ携ヘ来リテ
養ヒ置キタルニ翌年四月ニ至リ羽化シテ
蠅トナレリ此蠅ハ Sachina sp.ノ一ト称ス
ルーナランカ

附言 蛆ノ寄生セシ個虫多クハ湿地
ニテ取リ高キ所ニ取リテ高山乾燥ノ
地ニハ少ナカリシ

ス其蠅ハ蝗ノ翼下
看ス其蛆ノ卵ガ
役ニ蠅卵化セテ蛆ト
成尤時ニ至リ羽化ニ
ニ居[redacted]スナリト且
テ
居スハ理アレド蠅ガ
卵ヲ入ルハ少ク疑ナキ

田中芳男記

紀　傳　中　許　リ　山　爰　ハ　見　リ　日　ア

蝗虫ノ翼下ニ寄生セシモノハ蠅蛆ニ
アラスシテナダニノ一種ニシテ赤色ナル
モノヲ目撃セリ又蝗虫ノ体内ニ蛆ノ寄
生セシモノアルヲ見タリ是レ恐ラクハ蠅ノ
草葉ニ産卵セシモノ蝗虫ノ葉卵共ニ之
ヲ食ミ其卵蝗虫ノ胃中ニ入リ変化
シテ蛆トナリタルモノナランカ

河生実充
[illegible]
佐藤三郎
[illegible]書
[illegible]
[illegible]
[illegible]

飛蝗ノ北海道
滲フル所ノ内
中川郡邊ニ
郡日高国沙
リシト又今
山谿處トシ
爰ニ明治十三
ノ支土人始
見ルト蚕ニ當
リ段數増殖
日高膽振石狩
ノ国ニ連互

北海道ニテ蝗虫ハ斉生虫ト[illegible]
生シテ幾年[illegible]
創[illegible]三郎
[illegible]
[illegible]
且ツ斉生蝗ハ樹藝[illegible]
保[illegible]

[illegible]

…ハ蝗ノ翌下
生蝗ノ卵ガ
卵化セテ蛆ト
至リ羽化ニ
スナリト且

蝗アレハ蝲ガ
ヘ考察ス

田中芳男記

北海道飛蝗畧歴

飛蝗ノ北海道ニ発セシハ殊ニ近時ニ非ラサルモノヽ如シ土人ノ口碑ニ傳フル所ノ内稍其信ニ近キ一二ノ例ヲ挙クレハ凡一百年前十勝国中川郡邊ニ発生シ其害終ニ家屋人類マテニ及ヒシト又凡六十年前日高国沙流郡平取村邊ニ群下シ其害前例ニ於ケルト一般ナリシト又今ヲ去ル六十余年前ノ夏膽振国虻田郡ニ飛来シ原野山谿処トシテ擾ハサラサルコトナカリシト云フ

爰ニ明治十三年以来飛蝗蔓延ノ起源ヲ尋ヌルニ去ル明治十二年ノ夏土人始メテ十勝国中川郡ニ於テ小群ノ各所ニ発生セルヲ見ルト雖モ當時意ニ介セス軽々ニ看過セリ翌十三年ノ夏ニ至リ殼数増殖シテ大群ヲナシ近傍ノ青竹ヲ食尽シ遂ニ蔓延シテ日高膽振石狩ノ三ケ国ニ波及ス其起源タル十勝国ヲ合スレハ四ケ国ニ連亘セリ

此人兄二年[illegible]
上ケ候也
二月十五日 [illegible]
田中様

十四年ノ夏ニ至リ昨年ノ遺卵孚化シテ其蝻山野ニ満ツ発生ノ多キ昨年ニ倍蓰シ従テ長スレハ従テ移轉シ終ニ各地方ニ蔓延ス今其国郡ヲ掲クレハ左ノ如シ

十勝国ハ　中川郡　廿個所　河西郡　札内「フレカリキ」「オベリベリップ」及ヒ美生並ニ四河ノ両岸ニ亘ル

日高国ハ　沙川郡　廿個所　三石郡　壹個所　静内郡　十六個所

新冠郡　十五個所　牧馬場一円ヲ壹個所ト見做シ　沙流郡　十四個所

膽振国ハ　勇払郡　二十個所　白老郡　六個所　室蘭郡　十三個所

一　有珠郡　十七個所　幌別郡　千歳郡　虻田郡　以上三郡不詳

石狩国ハ　札幌郡　壹個所　石狩郡　壹個所　厚田郡　不詳（石狩国石狩厚田ノ二郡ハ未年蔓延セシモノ其他ハ総テ十三年ヨリ引続キ発生地）

右之国郡ヲ合計スルニ四ケ国拾七郡ニ渉レリ

膽振国勇払郡以西ニ発セシモノハ一時駆除其功ヲ奏シ全郡以東

ニ至リ蕃殖シ遂ニ翔颺シ膽振石狩ノ両国間ニ飛散シ白老幌別室蘭有珠ノ諸郡（以上膽振一国中）ニ再ヒ侵入セリ其遠飛スルモノ一ケ月ナラサルニ凡八拾里ニ達ストイフ

十四年蝗卵ノ孚化セシハ五月廿七日ヲ以首トス其初蕸白色忽ニシテ暗色ヲ帯ヒ凡四時ヲ経テ灰黒色ニ変ス而后脱皮スル丁四回ニシテ體骼稍具ハル之ヲ蝻ト云フ一躍シテ尺余ノ外ニ達スルヲ得ル其始メ孚化セシトキ数日ナラスシテ嫩葉ヲ食ス漸ク長スルニ従ヒ食尽スレハ忽ナ各群隊ヲナシ概子一定ノ方向ヲ取リテ進行ス其蝻ノ羽化スルヤ第四回ノ脱皮郎チ蝻ニ化セシトキヨリ後チ凡二週間内外ヲ期トス此時全ク體骼具ハル之ヲ蝗ト云フ丈シ蝗ノ振羽飛翔ノ状ヲ為ス羽化ヨリ二三日間ハ方位ヲ定ナス乱躍ス其状恰モ飛翔ヲ習慣スルモノヽ如シ既ニ二三日ヲ経レハ一群概方向ヲ同フシテ群飛ス此期ニ至レハ特ニ晝ノミナラス温暖無風ノ時ハ夜モ亦飛翔スル丁アリト虽モ多

東京大学総合図書館

クハ太陽西ニ傾ケハ草ニ寄テ泊ス又蝗ノ交接スルヤ地上ニ於テ
雄虫雌虫ヲ擁シ尾端ヲ接シテ孳尾シ静止スルヿ大概十二時ヨリ
二十四時間ノ久シキニ及フ而シテ爾后凡一週間ヲ経レハ則ケ其
雌虫尾ヲ以テ地ヲ堀ルヿ寸許卵ヲ其中ニ産ス此際食欲ナシ其
卵七八十顆乃至百顆以上ノモノアリ何レモ卵胞ヲ被ムリ其色
褐色形ケ長円形ヲナシ恰モ落花生ノ実ノ如シ
此年旧開拓使ニ於テ駆除ニ着手シ蝗卵百四拾五石蛹五千百八拾
石ヲ駆獲シ之ニ要シタル経費三万八千四百五拾六円五拾五銭ナ
リトス
尋テ昨十五年ニ至リ本省直轄シテ之カ駆除ヲ行フ四月十七日ヲ
以テ着手ノ始トス抑モ十四年ノ遺卵タルヤ其地方ヲ掲クル左ノ
如シ

膽振國ハ　有珠郡十五個所　室蘭郡十二個所　幌別郡二個所
白老郡　所　勇拂郡　所　千歳郡　所
合計六郡五拾五個所ナリ

日高國ハ　沙流郡四個所　新冠郡十一個所　静内郡三個所
合計三郡拾八個所ナリ

石狩國ハ　札幌郡十九個所　石狩郡六個所　樺戸郡壱個所
厚田郡二個所　合計四郡貳拾八個所ナリ

今産卵地ヲ総計スルニ国数三ケ国ニ跨リ郡数拾三郡ニ渉ル其東西
殆ント五拾里ニ達シ南北貳拾里ニ下ラス又産卵地ノ区域各広狭
アリ且ツ卵ニ厚薄アリテ其広キハ経殆ント拾余里ニ達シ狭キモ
数町ニ下ラス爰ニ差等ヲ分ツ左ノ如シ
膽振國勇拂郡鵡川村ノ産卵地タルヤ鵡川ノ沿岸ニアリ其広クシ
テ且ツ卵ノ厚キ各所ニ比シテ第一トス同國千歳郡漢島拾ノ向
村中ニアル原野及ヒ日高國新冠静内ノ二郡ニ跨ル牧場内外

ヲ以テ第二トス膽振国有珠白老ノ両郡之ニ亜ク胆振国室蘭幌別ノ貳
郡ハ卯薄クシテ区域モ亦狭シ石狩国札幌郡ノ如キハ卯散テ寡カラ
ストモ区域狭ケ所ニ散ス又同国樺戸郡ハ集治監ノ近傍僅々ニ止
ルノミ

夫レ卯ノ孚化スルヤ或ハ其地形ニ因リ遅速アリト雖モ本年ノ如キハ日
高国静内方面ヲ以テ最首トス于時六月上旬ナリ尋テ各地ノ卯孚化スル
ヲ見ル

蝻ノ羽化スルモ其遅速卯ノ孚化スルニ同シト雖モ膽振国勇払郡鵡
川村ヲ本年ノ最前トス于時七月中旬ナリ而シテ八月上旬ニ至ルヤ
羽翼ヲ逞フシテ飛颺スルニ及ブ各地多少ノ遅速アリト雖モ経過
ハ順序ニ至リテハ同一般ナリ又蝗蝻孩轉ノ景状及ヒ交尾ノ挙動
等ハ前ニ記スルカ如キナルヲ以テ贅セス

（蝗ノ最モ嗜ム所ノ植物ハ菓穀大小麦牧草玉蜀黍等ニシテ其他ノ植物ニ於テモ
シテハ殆ント喫食セサルモノナキカ如シ既ニ本年膽振国千歳郡千歳村）

字ホロマヽナイニ孚化セシモノハ此地ノ禾草稀有ナルヲ以テ樺樹等ノ樹
梢ニ攀登シ其葉ヲ咀嚼スルヲ見ル

爰ニ本年蝗ヲ駆除セシ地方ト群飛産卯ノ地トヲ掲ケルニ東海沿
岸諸郡（膽振国室蘭有珠幌別白老 日高国沙流新冠静内）ノ如キハ卯蝻ノ捕獲其功著シク
東西凡五拾里ノ間殆ント勦絶ニ帰シ唯道路河川ノ邊ニ於テ稀ニ
一二羽ノ飛翔スルヲ目撃スルニ過キス独リ膽振国千歳郡ノ山間
無人ノ境ニ発セシモノ終ニ東西ニ分レテ二群ヲナセリ而シテ其
東群復甲乙二群ニ分ル甲ハ同郡長都村及ヒ其近郊ニ産卵シ乙ハ
同郡漁川ニ沿フテ飛下ス其西群亦二群ニ分レ一ハ石狩国札幌郡
月寒村ヲ経テ札幌市中ニ侵入シ一ハ島松川（膽振石狩ノ国境）及ヒ其枝流
ニ添ヒ下リ東群ノ漁川ヲ沿フテ飛下セシモノト会シテ江別川ヲ
経テ石狩川沿岸江別対雁篠津等ノ諸村ニ蔓延セリ

曩キニ一回札幌市中ニ侵入セシモノ更ニ進路ヲ轉シテ三分シ其一分ハ西北シテ小樽及ヒ余市ノ村々ニ襲入シ一分ハ方向ヲ東北ニ取リテ石狩郡生振村及ヒ其近村ニ群下シ他ノ一分ハ迂回シテ札幌近傍山鼻円山琴似軽川手稲等ノ諸村ニ産卵セリ

爰ニ蝗虫ノ起原ナル十勝国ノ如キハ當縁郡歴舟川ノ上流ニ於テ遠ニ客歳ノ遺卵発生スルノミ其他ハ廣尾當縁両郡間ノ海岸逐止ニ於テ稀ニ一二ノ飛翔ヲ見ルニ止マレリ是全ク昨十四年此地ニ発セシモノ日高膽振石狩ノ三ケ国ヘ移轉セシ故ナラン

昨十四年ハ四ケ国拾七郡ニ跨リタル蝗虫モ今十五年ノ秋季産卵ノ期ニハ膽振国千歳郡石狩国札幌石狩樺戸空知ノ四郡ニ止リ貳ケ国五郡ニ減縮セリ又更ニ飛轉シタルノ地ハ後志国余市郡内仁木村近傍ニ於テ少許ヲ加ルノミ本年蝗ノ棲居シタルノ其廣袤ハ比例ニ殆ント一ニ減少セリ廿四年ニ産卵セル区域ト

本年四月着手以降蝗卵孚化ニ至ルノ間堀採スル處ノ卵及ヒ秋季産卵ノ後採集スルモノトヲ合計スルニ卵ハ貳千五百貳拾九石七斗七升ニシテ孚化ヨリ羽化ニ至ルノ間捕獲スル蛹九百拾貳石六斗八升三合壹勺ナリ之ニ要セシ百般ノ経費ハ金八万千貳百拾円五拾銭六厘ナリ

ミヅキノムシ　明治十二年三月十　田中芳男記

町田曰 薩摩ニミヅキトテ樹アリ即唐京ノミヅキゾ
此樹葉ヲ食スル一種ノ蠋アリ 桐蚕ト云ヘリ 今ヲ一種ノ
虫ニヨリ繭ヲ作ル 其用アルコト発見 李式家所テグス トナスノミ
先年 米国博覧会 御差向ノ節ヨリ 佐々木氏
ミヅキムシノ 繭ヲ孔アルニアリテ見ル 其繭ハ
樗繭ニ甚タ似タリ

右ハ製糸中ニ於テ粗悪ニ
ナル大要ヲ記シ且製糸者
予メ心得ノ為メ記ス

一 キビソ
製糸スル時糸口ヲ失ヒ再ヒ口ヲ得ル迄ニ手ニテ採リ
左手ニ溜リタル口糸ナリ

一 クチマユ
(打繭アリ或ハ口明キ繭)ノ類ハ如斯ナル者ニハ製糸ス
ル時繭質不良ニテ繭頭ノ二崩レテ糸條
リ兼ル究ノ口明キタルヲ云又ハ穴繭トモ云

一 フツツケ
(キビソ)ヲ壁又ハ板ノ目ニ打付ケ乾シタル
ヲ云

一 クヮイト
製糸ノ際糸口ノ掛ヲ外レ或ハ湯ニ付或ハ底ニ出
来ル毛ニノ故障ニテ再ヒ繰返ニモ不來ナル
解ク者ナリ

一 クヅマユ　糸悪キハ疵アル繭ニテ糸ニ繰リ難キ屑ノ繭ト云フ

一 ノシイト　製糸ノ時繭ヲ湯ニテ煮テ初メノ荒糸ヲ集合シテ麻苧ノ形チニ伸シタルモノ

一 デガラマユ　出ガラクハ(デガラマユ)ト云之ハ蛾ニテ発生シタル出殻ノ繭ニテ繰糸ニ成兼ルモノ

一 糸を一駄切たる縄の結目の[illegible]　之ハ(サナキハダ)ハダサナキト称ス蚕ノ幅ヲ取除ケ[illegible]ノミニシタルヲ

一 サナケ糸(三ケ迄ト云)　之ハ[illegible]ヲ集合シ南ノ形ニシタル物

一 ダチ糸(之ハカセヲ捻リタル物)故名

一 直綿

一 クヅ糸

一 外ニ
一 玉糸　之ハ二繭合繭ヲ以テ糸ニ繰リタルヲ云　玉下等ノ糸ナリ

太ノ糸ハ大略見ル四書[illegible]流ノ文[illegible]且[illegible]ニも何れとも[illegible]也

二[illegible]

FINANCE DEPARTMENT

Ja[illegible]

絹糸表ニハ真綿ノ通真偽ヲ Floss
Silk ト申[illegible]ノ[illegible]ニ入リ異字ナシ(Silk Nachi)[illegible]

絹糸表ニハ印ノ通真偽ヲ Floss
とか引抜[illegible]ノ[illegible]ニハ[illegible]
糸入リ異字ナレ Silk Noshi とか

FINANCE DEPARTMENT.

Japan ....*day of* .... *month*
Meiji *year.*

昨夕御尋之糸之義所謂
當用ニテハ Floss silk 第一[illegible]
有之候也

六月廿日

志賀

田中芳男様

一クヅマユ　屑繭ハ疵アル繭ニテ糸ニ繰難キ居ノ繭ト云フ

一ノシイト　製糸ノ時ニ湯ニテ煮テ動スノ屑糸ヲ集合シテ屑糸ノ形チニ伸シタルモノ

一テガラマユ　テガラマユハ（テガラマユ）之ハ蛾ニ破リ生シタル出売繭ヲ糸ニ成兼ルモノ

[illegible]書状

田中芳男

纏リ込ノわがタマリノ泥土ハ屑条ノ中

ニノリ（silk waste 屑ノ意）トモ名ニル也

乙ヽ名実従 Floss ハ之ト名ノ物ニモノヤ

ウナ綿ノヤウナ物ト云字ニテ夫ノ名

繭（画）ノ絶ヘノ部分ニテモ（一条状ヲ成サズ開キタルニテ）棄ルモノハ

総テ Floss silk ノ名ニ帰シ且ツ名

アルモノハ皆紡績ニ掛ケ木綿又ハ毛ト同

ジク両撚フモノトス然ルニ此ノ屑糸屋

其皆即チ西ニテハ Floss silk ニ造

リ又紡績ニ掛ケ候モノナド於外ニ

區分ノ名ナリ只 Floss silk ノ名

有ル所以ト存シ然ルニ方今浮間ノ名

ハ同ジカラズ落チ

此名ハ付ケハ経歴ニテ支国ヲ見

モノト見エ説ハ此名ヲ分ル皆

ラ判ルニツテリ日本ニテハ真ニ此ノ意

ノナルヘチヨメルモノハ名お

沖縄縣士年々

十六年?月?
琉球藩ヲ廃シテ
沖縄縣ハ旧琉球藩ヲ廃シテ置キ
ヲ以テ製糖金ヲ士族ニ[illegible]自家
尚泰那覇ニ移リ
国ノ為メニ之ヲ経営シテ高貴ト
サルコトナキニ至ル 尚泰ハ
但シ製糖ノ法ハ 首里ニ於テ
之ヲ清国ヨリ[illegible]

右ハ草稿ニ更ニ書シ候
ニテ角田甫ト存シ
猶御閲覧ノ上ハ
六月廿二日
[illegible]
田中様

[illegible]

天蠶絲　テグス

天蠶絲ノ名ハ物理小識ニ出ヅ又本邦著書ニハ奇品織
物商說ニ載ス　此品舊來清國ヨリ渡ス本邦ニテハ九州
地方ニテ樟蠶ヨリテ製スルモノ上等ニシテ十分代用ナシタリシガ
近年粗製ニ流レ遂ニ用ヲナサヾルニ至ル又信州ニテモ
樟蠶ヨリテ製スル了アリシ　博物局教草樟蠶一覧ニ図解
アリ　原來此糸ハ家蠶(カヒコ)野蠶(ヤマヽユ)ニテモ製シ得ベシトイヘドモ
樟蠶ノ如ク生糸トナスベカラザル蟲ヨリ製スルヲ最モ利
アリトス　故ニ又近年清國ヨリ渡ルハ樗蠶柳蠶ヲ用ヒシモ
製シ得レ　本ノ如クナシ凡誰獨リ樟蠶ニテ良好ノ品ヲ

日本産物誌
美濃部ノ
巻下ニ出

製スルナキハ遺憾ナリシガ近年天蚕会社（下総[illegible]谷ニアリ）ニ於テ工夫シ遂ニ清国品ニ劣ラザル品ヲ作レリ一助ト見ル所ナリ是ハ作リ方并ニ一時ニ作ラズシテ漸々ニ作ル等ノ方法ヲ考ヘアルヨリ都合能ク出来タリトノヿナレド氏ノ知ハ如何ナルヤ聞カズ西洋ニテモ家蚕ヨリ製スルモノアリ ウエブタ字書蚕ノ註ニ Silk-worm gut トシアリ又佛国ニテ伊国製品ヲ見ル Crin de Florence pour la pêche トアリ 英佛対訳書ニ Fishlines トアリ因テハ西洋書并ニ前ニ挙ル書ヲ見又天蚕会社ノ品ヲ又吟味セバ此過譜ヨリ優レタル説ヲ得ベキヲ信ズ

十四年十二月八日

マルヤ

[stamp]

三河 岡崎ノ傍ニ於テ[illegible]氏ノ店ニ琴糸モ三絃糸モ同製ス 唯余ガ長サヲ要シ[illegible]ニノ白色ヲ用ヒ青色ニシ又[illegible]ハカ[illegible]ヲ得ナルモ[illegible]ヲ塗リ此ヲ撚テノ後[illegible]手ニ固メ上ヲ乾ハ和[illegible]ヲ右ヘ[illegible]其他ハ[illegible]ナリ[illegible]ハ作ル近江[illegible]ニモアリ

琴糸

町田久成君曰 琴糸ハ弾力ノ最モ多キヲ要ス其故ニ近年粗糸ヲ以テ作ルモノハ外見ハ美ナレドモ十分ナラズ張レバ絶ヘ易シ又張詰メ置キ爪ニ掛ケ忽チ切ルヽハ是レ聊ノ伸縮力ナキニ因ル 従来琴糸ヲ作ルニ生糸ニ蒟ヲ塗リ又攫殺スルヿナク蒟蒻ノ後日ヲ経ザル八日間ニ糸ニ製シ右ノ数蝸ヲ用ユルヿナキモノナリ然ルニ近年ハ更ニ右様ノヿナカリシニヨリテ切レ易キヲ以テ得ズ 速水堅曹君ニ歎ニ生繭ヨリ直ニ製シタル生糸ヲ上州地ヨリ取寄セ琴糸トス

平酒井印ニ外ニモ
本年ニ係ル西洋ノ
ニアリ
大年十月三十日閲

大ナリト鍋島直大君ニ語ラレタルヲ聞キタル事アリ
曾テ同氏ノ話ヲ聞キタルコトアリキ
太ノ話ヲ高橋信貞氏ニ告ケシニ曰ク生蘭ヲ養ヒ学フ
生糸トナスニ甚タ解シ難キ困難ナルハ勿論糸線及ヒナリ
天蚕ノ類ハ一旦之ヲ伸ヒシ了ナレハ到底生糸ニ宜カラサル
ノ法ナキ状ナリ琴糸トシテ力アリ音ニ宜シキニ到底
ノコトナリ何トナク其識ヲナサヌコトニ云々
本文ノ事ハ高橋ノ話ニ由ルノコトナルヲ想起シ
茲ニ記スニアリ或ハ必要アランモ知ルヘカラサルカ
大年十月二十日挿
田中芳男記

蚕卵紙
鎮守以
左之通
一 七月三
一 四月
但シ
一 八十八夜
但
一 米夏
但
一 白露
但
福島縣

貴公信濃清嘗之邸
奉呈御家種ハ過般中上ハ
拝謁仕尽ク清恩御高配賜リ奉
拝謝候扨今般養蚕ノ
景況及蚕養秀義

此質ヲ失ヘリ依テ虚ニ清
蒼年中ニ於テ本年於家
蠶飼ハ五月十一日掃立
當時庭坪二日目ニシテ飛
蛾ノ好景況ニ於テ之候尤モ宜
同家製造ニシテ最高等
着法請評之改良採取
製種術ニ於テ相成時ヨリ一
層蚕児之強壮ヲ発起
依テハ本年製出仕於蚕

大年月三十日

種々撰取製既ニ改良ヲ仕之
目的ニ達居候且ツ清國
養蚕ヲ以テ専ラ飼法
試驗ヲ爲シ既ニ景況
ニテハ至ル好結果ヲ得候事ト
相成候事ニ付以上繭ハ
且農事國務ニ於テハ
職ニ通リ改補奉存上存候
速ニ通雅近以墨書奉存
上候 恒雄云

蚕業國
鎮坐以
左之通
一 七月三
一 四月
但シ
一 八十八
但
一 未夏
但シ蚕 既ニ信者ニ無ニ奉精撰繭ヲ奉破スル例之
一 白露
但シ蚕 養ヘ也ニ致ス恩寵ヲ

一 福島縣管下
一 若松

蚕養岡神社ハ延喜式内日本一社弘仁二年ニ
鎮坐以来蚕養蚕成就之為メ法格之神事ハ
左之通り

一 七月三十一日八月一日二日　　恒例祭

一 四月七日十五日
但シ蚕ノ〇〇安全之為大々神楽執行

一 八十八夜日
但 蚕ノ〇成就之祭

一 半夏生
但 此祭 此日信者並蚕精撰繭ヲ奉献スル例之

一 白露
但 此祭 蚕〇〇成就報恩賽之祭ナリ

福島縣〇〇下

種々採取製造ニ係良品ヲ仕之
目録之通差上申候
六月八日
伊藤傳 ㊞
田中芳男殿
閣下

以上蒼氓之爲之神事ニ如此ニ候也

東京本郷區金助町七十三番地

田中芳男殿

執事法中

岩代國北會津郡若松市六日町

佐藤[illegible]平

昆虫類ノ諸説

五節ノ者

Pentamera

無脊生物ノ第一支節生物ノ三　小虫類ノ一　甲虫類　Coleoptera

一	Cicindelidae	ミチヲシヘ　一	十一	Dynastidae	カブトムシ　サイカチムシ
二	Carabidae	Brachinus　ヘヒリムシ　二	十二	Trogidae	
三	Dytiscidae	ゲンゴロウ　三	十三	Lucanidae　鍬形虫科	ダイスクワムシ
四	Staphylinidae	青腐虫　四	十四	Histeridae	サクムシ
五	Gyrinidae	ミヅスマシ　五	十五	Byrrhidae	
六	Heteroceridae	[illegible]　六	十六	Nitidulidae	
七	Hydrophilidae	ガムシ　七	十七	Silphidae	
八	Geotrupidae	クソコガネ　八	十八	Dermestidae	
九	Cetoniadae　金亀子科	コガネムシ　九	十九	Elateridae	コメツキムシ
十	Melolonthidae	コフキコガネ　シャンシャンムシ　十	二十	Buprestidae	タマムシ

六十一葉　廿一　廿二　廿三　廿四　廿五　廿六　廿七　廿八　廿九　三十

不齊節ノ部 Heteromera

四節部 Tetramera

六一	Ptinidae	
六二	Tillidae	
六三	Lampyridae	螢科 ホタル
六四	Meloidae	芫菁科 Lytta アヲハンメウ meloe ツチハンメウ mylabris
六五	Tenebrionidae	
六六	Pyrochroidae	
六七	Cistelidae	
六八	Mordellidae	
六九	Anisotomidae	
三十	Mycteridae	
三一	Bruchidae	

Trimera 三節部

三二	Curculionidae	Calandra ノ一種 コクゾウ サウムシ
三三	Bostrichidae	ムシクギノムシ
三四	Trogositidae	
三五	Cucujidae	
三六	Cerambycidae	天牛科 カミキリムシ キクスヒ
三七	Crioceridae	
三八	Chrysomelidae	
三九	Coccinellidae	金衣虫科 テントウムシ
四十	Pselaphidae	
四一	Trichopterygidae	

三七 三七 三五 三六 三七 三八 三九 四〇 四一 四二

Heteroptera 不等翅

Homoptera 同翅

類ノ弐 Orthoptera 直翅類

一	Forficulina	ハサミムシ
二	Blattina	蜚蠊科 アブラムシ
三	Mantodea	螳螂科 カマキリ
四	Gryllodea	蟋蟀科 ケラ コホロギ エンマコホロギ
五	Locustina	螽斯科 ギス クビキリバツタ クツワムシ ツユムシ
六	Acridiodea	蝗蝻科 バツタ イナゴ

小虫類ノ三 Hemiptera 半翅類

一	Geocores	臭虫
二	Hydrocores	アメンボウ カイムシ ウラハサミ ミヅスマシ ミヅクモ
三	Cicadina	蟬科 セミ ヨコバイ アワフキ

六七葉 一 二 三 四 五 六 九七 六八 六九 三十

針角 Subulicornia
長角 Longicornia
齧類 Corrodentia

四	Aphidina	竹蝨科	アリマキ コウセニん	卅一

小虫類ノ四 Neuroptera 絃翅又網翅類

一	Libellulina		トンボ	十六
二	Ephemerina		ダイコクムシ ヤンマ 三盛トンボ	十七
三	Myrmecoleontodea		ウスバカゲロウ	十八
四	Hemerobiidea			十九
五	Panorpina		エテウ	二十
六	Raphidiodea			廿一
七	Perlaria		カハトンボ	廿三
八	Phryganodea			廿五
九	Termitidae	白蟻		廿二

晝蝶 Diurna
晩蝶 Crepuscularia
夜蝶 Nocturna

小虫類ノ五 Lepidoptera 鱗翅類

翅通ニ四叉六本ノ脚

一	Papilionina	真蝶科		一五六 七八九
二	Hesperidea	擬蝶科		十
三	Sphingodea	天蛾科		十一 十二
四	Zygaenidae	擬蛾科	エウカキベツメウ	十三 十四
五	Bombycidea	蠶蛾科		十五
六	Noctuacea	真夜蝶	ヤスズメ科	十六
七	Phalaenodea	尺蠖科		十七
八	Pyralidae	螟蛾科		
九	Tortricina	巻葉虫	ハマキムシ	十八

博物局

十 Tineadea

十一 Pterophoridae 羽翼蝶

鋸アルモノ Phytospheces

締アルモノ Entomos pheces

針アルモノ Aculeata

小虫類ノ六 Hymenoptera 膜翅類

一 Tenthredonidae

二 Siricidae

三 Chrysidae

四 Gallicolae 没食子ノ虫

五 Ichneumonidae 馬尾蜂

六 Sphegidae 蠮螉科

七 Formicidae 蟻科

八 Vespidae 黄蜂科

九 Anthophila 蜜蜂科

鬚ニ多節アリ

鬚ノ節三ツ

小虫類ノ七 Diptera 二翅類

一 Tipularia, Culiciformis 蚊科 カノ□

二 Rostratae

三 Tabanidae アブ

四 Asilidae

五 Syrphidae

六 Bombylidae トラバチ

七 Oestridae

八 Muscidae

九 Pupipara

十 小虫類ノ八 Strepsiptera, Rhipiptera 簾翅類

十一

小虫類ノ九 Suctoria 吸血類

一 Pulicina 蚤科

小虫類ノ十 Parasita 寄食類

一 Pediculina 虱科 毛間ニ生シ然シテ血ヲ吸フ者

二 mallophaga

小虫類ノ十一 Thysanura 総尾類

十八 十九 十一 十三 十四

一 Lepismatidae 蠹魚科

二 Podurida 樹蚤科

小虫類ノ十二 Myriapoda 千脚類

一 Myriapoda 馬陸科

二 Scolopendra 蜈蚣科

十二 十三 十六 十七

東京大学総合図書館

~~チャーレスナスト 博物学ニ依 蛾蝶科ノ也~~

~~Coleopteros ([illegible]), Common grief~~

Antennae, (voelhorens of sprieten.)

Labium, (bovenlip.)

Mandibulae, (bovenkaken)

Maxillae, (onderkaken)

Palpus, (tasters of voelers)

Chitine 甲殻ノ外ノ厚皮

Cephalothorax (kopborststuk)

Proboscis 英 鼻 象ナドノ

Tarsus (voet)

東京大学総合図書館

採虫指南壱冊

難有拝戴仕候為出札献呈スベキ雅意ニ候ハヾ害虫

喰葉害ノ間害殺ニ備ヘ候歟

明治十六年十二月八日　貞正明

田中芳男様

木葉喰虫之辨

凡虫類有害ヲ専トス其害スルニ各種アリ今爰ニ記スルハ葉

而已トス其類ト云ドモ少ナカラズ荒増ヲ載ス葉上ニ居テ液ヲ吸ヒ乏

枯渇ス又星ノ如クニナス其形毎樹ニ寄生シ一ナラズト云ドモ大同小異

其害虫ハ敢テ害ナカルベシ葉ヲ喰スルニ於テハ虫類若干アリ多

クハ線ヨリ葉茎ノ際迄喰スルモノ多シ甚シキニ至リテハ一木

中ノ青葉ヲ喰ミ遂ニ青不残遠看枯木ノ如シ或ハ青葉
外圍ヨリ食ヒ尖ニ至テ隣葉ニ移ルノ変アリ又ハ葉脈ヲ残
シテ食スルモノ有其類甚少ナシ蔽スル一葉ハ僕虜ルニ喰スルニ
非ラスシテ前条ニ記スル液ヲ吸ノ変ニシテ青葉ノ際不知冬ニ至リ
如此ニナスモノ変擬スル十積年ナル李疫風雨ノ為ニ虫害ニ
係ル木葉如此モノ在リ葉脈ヲ残シテ害サル、樹木数種アリ其
出實擬セント欲スル十年久シ未タ十ノ一ヲ擬仕セザレハ追テ洞擬ス
本年降局ノ際上野公園樹下ニ散満スル木葉中ニ有一
葉ハ全備ニシテ稀ナリ因テ此一頁ヲ以テ備フ

文部省

前二以12ケ

ハリガ子ムシ　線蟲

田中芳男

ハリガ子ムシ（同名アリ）一名アシマトヒ」又シ
マキムシ」ト云フ栗本丹洲翁ノ千蟲譜ニ画説
アリテ墨客揮犀ノ水蠱蟲及ビ筍閣小説ノ線
蟲ニ充ツ英華字典ニ Hair worm 綫蟲ト譯セリ
[illegible] 羅甸名ヲ Gordius aquaticus Linn.
ト云フ
此線状蟲ハ太サ一分ニ充タズ長サ一尺以上
或ハ三尺餘ニ至ル全体ハ暗褐色ナル或ハ黄濃

博物局

或ハ淡アリ其状恰モ銅線ニ似テ其頭
ニ圓キ口アリテ尾ノ方ハ細ク尖レリ僅堅靭ナレドモ
自由ニ屈伸シ或ハ伸テ直線ヲナシ或ハ巻テ
螺旋状ヲナス性甚タ強ク寸断スルモ容易ニ死スルヿナシ
此虫ハ河水、池水或ハ雨後ノ潴水又ハ水
盆内等ニ於テ屡見ルヿアリ亦蟷螂ノ腹内ニ在
ルヿ多ク又螽斯(キリギリス)、草螽(ハタオリムシ)等ノ腹内ニモ寄生セリ
然レドモ小鳥ノ腹中及ビ鰻魚(ウナギ)ノ脊上ニ生セル
瘤状ノ内ニ在ル者ハ同種ニシテ別物ナリ
前條ニ述ル如ク或ハ淡水ノ中ニ在リ或ハ小

虫ノ腹内ニ寄生スルヲ見ルト雖モ未タ其然ル所
以ヲ詳ニセザリシガ去ル明治九年十月八日鍋
飼ト見ルガ為メ多摩川ニ遊ビシ時河岸ヨリ
二個ノ蟷螂水面ニ垂ル草上ニ在ル
見ヘ其一個ハ異様ノ態ヲナシ頻ニ後体ヲ
運轉シテ水ニ点浸セリ因テ熟視スルニ線虫
忽チ糞孔ヨリ闖出シ須臾ニ一尺餘ノ全形ヲ
顕シ水中ニ入リテ旋轉活動ス蟷螂ハ尚暫時
後体ヲ伸縮シテ後愉快喜悦ノ状ヲナシ水
ヲ游キテ岸上ニ帰レリ因テ線虫ヲ捕ヘ之ヲ検ス

東京大学総合図書館

ルニ尋常品ニ異ルヿナシ始テ知ル蟷螂ノ腹
内ニ寄生スル線蟲ハ其成長ノ度ニ至レハ蟷螂
之ヲ覚リ自ラ水中ヘ放ツ所ニシテ従来屡見ル
ヿアル一所以ナリ
西洋書ニ於テ此蟲ヲ或ハ環蟲部ニ入ルレトモ
多クハ内臓蟲部ニ入レタリ且其説ニ曰ク此
蟲ノ卵ハ見ルベカラズト雖モ蓋シ水中ニ在
リテ小蟲ノ来リ水ヲ飲ムニ當リ其体ニ入リ
十分成長シテ後出テヽ水中ニ入ル故ニ水中
ニ於テモ毎ニ見ルヿアリト云々

中生スルモノヨリハ
保程(?)続ムヲ
ト知ル、

サルノヤカン 或 リスノス

蟲窠ニテ以テ(?)蟲カナラナルニテ
此名アリ

日向霧島山ノ東麓森林中ニ生ス 山茶ノ柿渋ニ着ク所ノ
一種ノ蟲窠ニテ恰モ五倍子(キフシ) 蒲盧子(ヒヨン)ノ如キモノナレトモ彼ノ
如キ空虚ナラスシテ 槲櫟葉ニ生スル所ノカミナベ トテモノヽ如ク
硬黄色ノ巻曲シタル鉄(?)房ニシテ 長サ五分許アリ 而テ形ハ
大小不同ニシテ一定ノ形ナキモ 略琴歌 或ハ人首ノ如ク
枝頭ニ下垂シテアリ 又落シ気ルモノハ荷葉上ニ落タルニ
暗茶色ニシテ恰モ乾蠒ノ如ク 汚穢ナルモ 手ニ取リ灰(?)唇
テ振リタルハ 軽鬆ナルモノトナリ 合羽郭ノ古唇ニ似タリ。
右ハ亢年(?)十月ニ日 且テ取ヘ送ル 十月廿日 田中記

東京大学総合図書館

虫類逓送手當之事

紙儀板

東京大学総合図書館

虫類逓送手当之事

一虫類種々アレトモ蜈蚣、蚰蜒、翼虫ノ如キハ帽針ヲ以テ差シ乾シ石龍子、雨蛤、蛇又蜘蛛、環虫、内臓虫ノ如キハ乾ス事能ハズ故ニ火酒ニ浸ス事

一甲虫翼虫又蟻ノ如キ無翼虫ハ採テ直ニ第一号、第二号、第三号之法ヲ以テ殺シ帽針ヲ以テ差シ箱ニ収メ乾スヲ善トスレトモ遠地ヨリ輸送セシメ又行路中ニ漸ニ捕ルトキハ前条ノ如キ手当ヲ十分ナシ難キユヘ第一号、第二号、第三号ノ略法ヲ以テ乾スベキ事

一小虫ヲ捕リシトキハ直ニ第三号ノ法ヲ以テ速ニ殺スベシ其後

滑ナル帋袋ニ入ルベキ事

一乾シタル虫ヲ遠地ヨリ輸送セバ第六号ノ法ヲ以テ柔軟ナラシメ然ル後針ニ差シ其全体ヲ整理ニシテ箱ニ収メ乾ス可シ

第一号殺虫之事

一甲虫類ハ底列並油ニ入レ殺シ又之ヲ飲シメテ殺スベシ

同畧法之事

一右之薬ヲ得ル丁能ハザレハ微温湯ノ中ヘ其虫ヲ浸シ死スレハ速ニ引上ケ乾スベシ

第二号殺虫之事

一蝶ハ舶来ノ酢ヲ以テ殺ス其法ハ鉄筆ノ尖頭ニ醋ヲ附ケ咽喉ヲ突ベシ一度ニテ死ナザレハ再三如此シ而シテ後ニ帽針ヲ以テ差シ箱ニ収ム但シ和製ノ醋ハ効少ケレハ用ユベカラス

同畧法之事

一舶来酢不便利之地ハ蝶ノ腹ノミヲ微温湯ニ入レ暫浸スベシ殺シテ後前条ノ如ク箱ニ収ムベキナレトモ帽針ナキ所ニテハ紙袋ニ入レ乾スベシ

第三号殺虫之事

一小キ蝶其他小キ翼虫又柔軟ナル翼虫ハ指ニテ撮ミ殺スベシ其方法ハ如圖ナスベシ若シ其方法ノ施シ難キ細小ナル虫ニ於テハ

滑ナル帛袋ニ封シ入レ乾シ殺スベシ

第四号紙袋之事

一包ベキ紙及ビ袋ハ滑ナル西洋紙又鳫皮紙ノ如キ類ヲ用ルヲ善トス包方ハ左之通リ適宜ニ致ス事

指ニテ蝶ヲ殺雛形

第五号運送之事

一虫ヲ殺シ乾カシタル後ハ茶筒又ハ金平糖ノ明箱等ノ如キ箱類又硝子壜杯ヘ鉀糠又鋸屑ノ乾キタルヲ交ヘ収入密封シテ送ルヘキ事

第六号到着ノ後取扱事

一虫製サズシテ置ニハ其虫ノ体乾物ナレハ其侭ニ置餘間アル時ニ取出シ製ス其侭置ニハ樟脳振込ヲ良トス虫ニ水分有レハ度列並油ヲ注キ熬ル共又ハ浸スモ宜シ

同製虫之事

一捕タル虫柔ナルモノハ速ヤカニ製ス若シ蒸レタル様子アラバ

早ク底列並油ニ浸シ引上ケ天日ニ乾ス但シ直ニ乾スベカラス其虫乾

キテ後剛ナレハ底列並油ニ浸シ一昼夜ニシテ柔軟ナラシメ

然ル後ニ製ス一昼夜ニシテ尚柔軟ナラザル時ハ再底列並油ニ

浸シ置キ製スル事アレドモ永ク浸シ置ハ全色変スルノ患

アルモノナリ

同又之法

一器内ニ微温湯ヲ入レ其上ニ湯ノ附カザル朴踈ニ板ヲ並ヘ

其上ニ虫ヲ置キテ器ノ蓋ヲ成シ一昼夜ヲ経レハ柔軟トナル

モノナリ若柔カナラザルモノハ湯ヲ換ヘ柔ラケテ而シテ後ニ製ス

此法ヲ以テ製スルモノハ水分ヲ含ムガ故ニ尚乾シ方ニ念ヲ入ベシ

東京大学総合図書館

虫類目録

郵便船中ニ多キ 小甲虫 碧色光沢アリ

陸前松島 小蝦虫

同 同 大ナルモノ

同 蛁虫

北海道 馬ヲ螫ス 虫

同 白髪ノ小隠

蘭法寺山麓 小蛍

鵡川 ドロヤナギ葉ヲ食フ小甲虫

賀張 ヘヒリムシ

同浅 潮水際ニ到リテ居ル カメムシ一種 背緑金色腹赤色ノモノ

同 蝗虫

鵡川 同

島松ヨリ札幌迄
山中所採ノ蝶

白老　蝗虫
〃　蚊
静内（シヅナイ）　室内ノ蛾
濱村（ニカツプ）　蝗虫　此地ノ者雄雌相ツルミノ時附　外ニ二三頭
札幌　青柳渡ニ　カメムシ
〃　〃　ウモアリ
〃　〃　蝗虫
〃　〃　〃
〃　樹ノ間ニ　〃
〃　丸山叢　甲虫　一尾　外ニ多種入ツテ
〃　手稲村　モノアラムシ　カメムシ　ウンゲノフキ
苫小牧　甲虫　二尾

右九月中
柴村　一種ノイナゴ　許多
七重村　バッタ　是早川ニ発セシモノト同
大野村　バッタ　同
右十月中
弘前在常盤野村　イナゴ
〃　出来島ハマナス　実虫草
陸奥　三本木　イナゴ
陸前　阿武隈川ノ岸ニテ水中ニ得ル　奇品
〃　亘理ノ居　モズノハリツケ
〃　〃　蟹　但ハサミ鋏
岩代　福島ノ蝶

福島縣 磐城
田村郡 熊耳村 手ヲ以用ユル
カンゴ 串差

明治二十四年十月 二十日
田中芳男記

右者中
北海道ノ柳青楊ノ葉ヲ食ム蛾ノ卵 送入
柳楊ノ葉ヲ千ノ葉ヲ食ム蝶卵
佐田名拝

北海道 十五 九十月

右明治藤田傳徳氏ヨリ貰フ所ニシテ是迄博覧会ノ
出品アリシモ未ダ見タルコトアラズ此甲虫ハ各地共ニアルニテ水稲
繁殖ニ取リ害物タルニ過ギズ然レトモ之ヲ食用スルハ所
全ノ本トスベシ今之ヲ見ルニ胴ノ横ヨリ竹筆ニ貫キ
脚ヲ火ニ焙リタルモノナリ是ハ水中ニ棲息スル大虎
ノ内ニ数フベキモノトス

東京大学総合図書館